

平成元年度

教授要目

小樽商科大学

平成元年度 1989/1990 CALENDER

4月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土
							1		1	2	3	4	5	6	7
	2	3	4	5	6	7	8		8	9	⑩	11	12	13	14
	9	10	11	12	13	14	15		15	16	17	18	19	20	21
月	16	17	18	19	20	21	22		22	23	24	25	26	27	28
	²³ / ₃₀	24	25	26	27	28	⑲		29	30	31				
5月	日	月	火	水	木	金	土	11月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	④	⑤	6					1	2	③	4
	7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	11
	14	15	16	17	18	19	20		12	13	14	15	16	17	18
月	21	22	23	24	25	26	27		19	20	21	22	⑳	24	25
	28	29	30	31					26	27	28	29	30		
6月	日	月	火	水	木	金	土	12月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3							1	2
	4	5	6	7	8	9	10		3	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16	17		10	11	12	13	14	15	16
月	18	19	20	21	22	23	24		17	18	19	20	21	22	⑳
	25	26	27	28	29	30			²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29	30
7月	日	月	火	水	木	金	土	1月	日	月	火	水	木	金	土
							1				①	2	3	4	5
	2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13
	9	10	11	12	13	14	15		14	⑮	16	17	18	19	20
月	16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27
	²³ / ₃₀	²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29		28	29	30	31			
8月	日	月	火	水	木	金	土	2月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5						1	2	3
	6	7	8	9	10	11	12		4	5	6	7	8	9	10
	13	14	15	16	17	18	19		11	⑫	13	14	15	16	17
月	20	21	22	23	24	25	26		18	19	20	21	22	23	24
	27	28	29	30	31				25	26	27	28			
9月	日	月	火	水	木	金	土	3月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2						1	2	3
	3	4	5	6	7	8	9		4	5	6	7	8	9	10
	10	11	12	13	14	⑮	16		11	12	13	14	15	16	17
月	17	18	19	20	21	22	⑳		18	19	20	㉑	22	23	24
	24	25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	31

太字は休業日、○印は祝日及び休日

平成元年度 行事予定

	期日・期間	内容	
前	4月13日(木)	入学式	
	4月14日(金)	2～4年次生授業開始及び成績票交付	
	4月14日(金)～4月15日(土)	新入生合宿研修	
	4月17日(月)～4月18日(火)	新入生オリエンテーション	
	4月19日(水)	新入生授業開始	
	5月6日(土)	履修届締切日	
	5月中旬	定期健康診断	
	5月29日(月)～6月7日(水)	履修確認期間	
	6月10日(土)午後	}半期制科目中間試験	
	6月17日(土)午後		
期	7月7日(金)	創立記念日	
	7月10日(月)～7月19日(水)	履修科目取消期間(通年及び前期開講科目)	
	7月17日(月)～7月22日(土)	夏季集中講義	
	7月16日(日)～8月31日(木)	夏季休業	
	9月14日(木)	前期授業終了	
	9月16日(土)	臨時休業	
	9月18日(月)～9月30日(土)	前期定期試験	
	後	10月2日(月)	後期授業開始
		11月4日(土)	研究指導オリエンテーション
		11月6日(月)～11月25日(土)	研究指導募集選考期間
11月18日(土)午後		}半期制科目中間試験	
11月25日(土)午後			
11月25日(土)		第1回学科・課程所属オリエンテーション	
11月28日(火)		研究指導内定者発表	
12月11日(月)～12月20日(水)		履修科目取消期間(後期開講科目)	
12月18日(月)～12月23日(土)		冬季集中講義	
12月17日(日)～1月17日(水)		冬季休業	
1月31日(水)	卒業論文提出締切日		
期	2月1日(木)	第2回学科・課程所属オリエンテーション	
	2月1日(木)～2月7日(水)	学科・課程所属募集期間	
	2月13日(火)	後期授業終了	
	2月14日(水)	臨時休業	
	2月15日(木)～2月28日(水)	後期定期試験	
	(注) 3月16日(金)	卒業判定会議(予定)	
	3月20日(火)	卒業式	

目 次

I 平成元年度開講科目..... 1

II 卒業に必要な単位一覧表..... 3

III 科目履修と単位修得..... 4

1 一般教育科目の履修方法..... 4

2 外国語科目の履修方法..... 4

3 保健体育科目の履修方法..... 10

4 基礎教育科目の履修方法..... 10

5 専門教育科目の履修方法..... 10

6 教職科目の履修方法..... 10

7 単位の互換制度..... 13

8 昭和59年度以前入学者の履修上の注意事項..... 14

9 進級に必要な単位..... 15

IV 科目試験受験に際しての注意事項..... 16

V 卒業論文執筆要領..... 17

VI 平成元年度開講科目の講義要目..... 21

VII 一般教育セミナーの講義要目..... 111

I 平成元年度開講科目

〔一般教育科目等〕

区分	授業科目	単位数	必修科目	配当年次	実施時期	担当教官	備考	
一般教育科目	哲学	4		I	通年	渡辺	23	
	倫理学	4		II	通年	渡辺	23	
	心理学	4		I	前期	和田(完)	23	
	歴史学	4		I	通年	荻野	23 A・B 2クラス	
	日本文学	4		I	通年	村山	24 A・B 2クラス	
	外国文学	英文学	4		II	通年	豊国	25
		ドイツ文学	4		I	通年	中川(勇)	25
		フランス文学						非開講
		中国文学						非開講
	社会科学系	ロシア文学						非開講
		社会科学概論						非開講
		社会学	4		I・II	通年	笹谷	25
		社会思想史	4		I	通年	倉田	26 A・B 2クラス
		教育学	4		II・III	通年	黒川・上野	26
政治学		4		I・II	後期	相内	27	
自然科学系		物理学	4		I	通年	原田	27
		自然科学概論	4		II	通年	原田・山田(家)	27
		化学	4		I	前+集中	木村	27 前期・夏季集中の両方を履修
		生物学	4		I	通年	山田(家)	27 A・B 2クラス
外国語科目	英語	英語I (I-A)	2	◎	I	通年	P.5 別表参照	29
		英語I (I-B)	2	◎	I	通年		
		英語II (講読)	2	◎	II	通年	P.5 別表参照	33
		(会話・作文)	2	◎	II	通年		
	英語III (講読)	2	◎	III	通年	P.5 別表参照	37	
	英語以外の外国語	ドイツ語	I	4	○	I	通年	P.6 別表参照
II			4	○	II	通年		
フランス語		I	4	○	I	通年	江口・高橋純・梶野 高橋百・デュボワ	43
		II	4	○	II	通年		
中国語		I	4	○	I	通年	木之内・野澤・ 大谷	44
		II	4	○	II	通年		
スペイン語	I	4	○	I	通年	山田(真)	45	
	II	4	○	II	通年			
ロシア語	I	4	○	I	通年	松本(忠)	46	
	II	4	○	II	通年			
保健体育科目	体育講義	2	◎	II	前・後	大竹	47 前期・後期のいずれかを履修	
	体育実技	2	◎	I	通年	杉山・藤江・田野 中川(喜)・中川(平)	48 前期・後期のいずれかを履修	
基礎教目	経済学概論	4		I	通年	A 鷗沢 B 坪沼・栗田	50 経済学科	
	商学概論	4		I	通年	篠崎・森田・久野	51 商業学科商学コース	
	法学概論	4		I	通年	町村・丸山	52 商業学科経済法学コース	
	管理科学概論	4		I	通年	樋口・沼田	53 管理科学科	
数学	4		I	通年	白川・兼岩	54 4クラス		

(注) 1. 商業教員養成課程所属学生は法学概論(日本国憲法2単位を含む)が必修となる。
必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目を示す。
2. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

Ⅱ 卒業に必要な単位一覧表

〔一般教育科目等〕

区分	昭和60年度以降入学者		昭和59年度以前入学者		
	単位数	備考	単位数	備考	
一般教育科目	人文科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	社会科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	自然科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	計	24	6科目以上	28	7科目以上
外国語科目	18	英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目) のうちいずれか1科目 選択必修	18	英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目) のうちいずれか1科目 選択必修	
保健体育科目	4	体育講義・実技共必修	4	体育講義・実技共必修	
基礎教育科目	12	＊必修科目を含め3科目以上	8	2科目以上	
合計	58		58		

- (注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。
2. ＊印を記してある必修科目については、平成元年度開講科目表の備考欄を参照のこと。

〔専門教育科目等〕

所属区分	経済学科, 商業学科商学コース 商業学科経営法学コース, 管理科学科		商業教員養成課程	
	単位数	備考	単位数	備考
所属学科(コース)科目	40	所属学科(コース)＊選択必修4科目	44	＊選択必修6科目(24単位)
他学科(コース)科目	24	他学科(コース)＊選択必修2科目 管理科学科所属の場合は1科目		
教職科目			20	＊必修6科目
研究指導	12	原則として所属学科(コース)を履修 履修しない者は所属学科(コース)科目12単位を充足履修	12	他学科(コース)履修履修しない者は他学科(コース)科目12単位を充足履修
合計	76		76	

- (注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教員免許状を取得しようとする者に限り、教科に関する専門科目(英語科)の研究指導を履修することができる。
2. ＊印を記してある必修, 選択必修科目については、平成元年度開講科目表の所属別必修科目欄を参照のこと。

Ⅲ 科目履修と単位修得

本学の全課程を修了するためには、4年間以上在学し、次の事項に示された科目を履修し、単位を修得することによって全課程修了が認定され、卒業資格が与えられます。

卒業所要単位数は134単位となっており、その履修方法については授業科目区分、学科毎に定められていますが、各入学年度及び各自が所属している学科・課程によって異なりますので十分注意を要します。

本学の教育課程は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目、専門教育科目及び教職科目の区分で構成されていますので、それぞれの履修方法に従って履修計画を立ててください。

1. 一般教育科目の履修方法

一般教育科目は、人文、社会、自然科学の三分野に分かれており、これらの科目はそれぞれの配当基準年次に沿って履修すればよいことになっている。

また、当該年次に修得しておかないと、翌年以降に履修を希望しても、専門教育科目と時間が重なったりして履修のできない場合が起こるので、配当年次どおり履修することが望ましい。

卒業要件は各分野から最低1科目4単位を含め合計24単位を修得しなければならない。ただし、昭和59年度以前入学者については合計28単位の修得を要する。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語及びロシア語の6カ国語を開設している。

外国語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)

英語(I・II・III)はI・IIとも毎週4時間4単位ずつ、IIIは毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。

英語以外の外国語(I・II)はいずれか1カ国語を選択必修とし、I・IIとも毎週4時間4単位ずつ、合計8単位を修得しなければならない。

★ 英語

- (1) 平成元年度の英語クラス配置および教科の種別は別表のとおりである。
- (2) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0, 1は文学作品の講読、2, 3は評論、伝記、語学書等の文学作品以外の講読で、4, 5は会話作文等、6は文法である。1ケタ目の0, 1, 2……はクラス別を示す。
- (3) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは別表A群より

2単位、B群より2単位、合計4単位を選択履修し、英語IIは講読2単位と他クラスの講読か会話・作文等のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIIは講読2単位を選択履修すること。

- なお、同一年次配当の同一教官担当のクラスを2つ履修することは出来ない。
- (4) 履修する学生は講義要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
 - (5) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課教務係の窓口へ提出すること。詳細については別途指示する(学生課の掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

別 表

平成元年度英語クラス

英語 I - A 群			英 語 II			英 語 III		
講 読 及 び 文 法	文 学 作 品	E 101 永原 E 102 豊国 E 103 君羅 E 104 {前期:伊藤 後期:杉村 E 105 {前期:伊藤 後期:杉村 E 106 片山	講 読 及 び 文 法	文 学 作 品	E 201 永原 E 202 豊国 E 203 君羅 E 204 {前期:本城 後期:杉村 E 205 {前期:本城 後期:杉村 E 206 片山 E 207 西村 E 208 西村 E 209 宮町 E 210 宮町	講 読 及 び 文 法	文 学 作 品	E 301 永原 E 302 豊国 E 303 君羅 E 304 菊池 E 305 横尾
		E 121 下村 E 122 山本(久) E 123 山本(久) E 124 津曲 E 125 高井			E 221 {前期:下村 後期:杉村 E 222 山本(久) E 223 津曲 E 224 大島 E 225 浪田 E 226 高橋(英) E 227 鈴木 E 228 鈴木 E 229 根本 E 230 下宮			E 321 下村 E 322 山本(久) E 323 津曲 E 324 Carr E 325 浪田 E 326 高橋(英)
英語 I - B 群								
講 読	文 学 評 論 等	E 107 横尾 E 126 根本 E 127 下宮						
会 話 ・ 作 文		E 141 Carr E 142 Carr E 143 Carr E 144 Carr E 145 Hanley E 146 Hanley E 147 Toskar E 148 Toskar E 149 Grose E 150 Grose E 151 Grose	会 話 ・ 作 文		E 241 Carr E 242 Carr E 243 Hanley E 244 Toskar			
文 法		E 161 下村						

〔英語共通試験実施要領〕

英語 I - A 群クラスの履修と単位認定について

- (1) 英語 I は A 群から 1 クラス 2 単位, B 群から 1 クラス 2 単位, 合計 2 クラス 4 単位を選択履修すること。
- (2) 英語 I - A 群クラスの履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
- (3) 共通試験は前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
- (4) 英語 I - A 群の各クラスの単位は, クラスの成績と共通試験の成績とにより, クラス担当教官が認定する。
- (5) 課外テキスト
吉川 美夫著『考える英文法』文建書房
- (6) 昭和 63 年度以前入学生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は平成元年度生の履修方法に準ずる。なお, 英語 I の単位未修得者は, I - A 群のクラスにかえて E 161 を選択することができる。ただし, I - A 群のクラスを選択する場合は, 必ず共通試験を受験しなければならない。

★ ドイツ語

1. クラス編成と授業担当者

	ドイツ語 I				ドイツ語 II			
火	I A	バ	イ	ル	II A	バ	イ	ル
	I B	中		川(勇)	II B	中		川(勇)
	I C	橋		本	II C	大		塚
	I D	大		塚	II D	橋		本
	I E	寺		田	II E	寺		田
木	I A	寺		田	II A	大		塚
	I B	吉		岡	II B	加		納
	I C	大		塚	II C	吉		岡
	I D	加		納	II D	寺		田
	I E	(前)野田	(後)副島		II E	(前)野田	(後)副島	

2. クラス説明

(1) ドイツ語 I

- (a) I A は, 火曜日にはドイツ人講師による会話主導の授業を, 木曜日には日本人教師による文法の授業(火曜日のドイツ人の講師による授業をある程度踏まえる)を行う。さしあたり本年度前期に限り, 毎週補講を行う予定である。

- (b) I B・C・D・E は, 火曜日には易しい講読(主として文法知識の応用的訓練)の授業を, 木曜日には文法の授業を行う。

(2) ドイツ語 II

- (a) II A は, 火曜日にはドイツ人講師による会話主導の授業(内容は前年度の続き)を, 木曜日には日本人教師による講読(火曜日のドイツ人講師による授業をある程度踏まえる)を行う。
- (b) II B・C・D・E は, 火曜, 木曜とも講読を行う(ただし応用的訓練を主とすることもある)。いずれも日本人教師が担当する。

3. 履修方法

- (1) 各履修者は, A・B・C・D・E のうちいずれか一つのクラスに所属し, そのクラスの授業に週 2 回出席しなければならない。(一人が二つのクラスに所属していた三年前までのやり方を止めたので, 4 年次生以上は注意すること)
- (2) ドイツ語 I・II とも, A クラスには希望者のみ所属でき, それ以外のクラスは所属指定制である。なお, クラスの所属は 4. による。
- (3) I A・II A とも履修者数を教室の都合上 30 名までとする。これを越えた場合には抽選によって履修者を決定する。
- (4) II A の履修は, 原則としてすでに I A を修得済の者に限られる。ただし, ドイツ語 I で優の成績を収めた者については, クラスの人数に余裕がある場合のみ例外として履修を許可する。
- (5) I A・II A の同時履修は許されない。その他のクラスについても I・II の同時履修は出来るだけ避けること。それが止むを得ぬ場合にも, I が不合格であれば II も不合格となるので厳に注意すること。

4. クラス所属

学生番号に従って下表のようなクラス配属となる。この要領は全学年共通である。

	ドイツ語 I	ドイツ語 II
A クラス	希望者	希望者
B クラス	1 番 ~ 112 番	1 番 ~ 105 番
C クラス	113 番 ~ 224 番	106 番 ~ 212 番
D クラス	225 番 ~ 336 番	213 番 ~ 319 番
E クラス	337 番 ~ 最終番	320 番 ~ 最終番

5. 注意事項

- (1) 授業出席を重視する。各学期 1/3 以上欠席したものには, 原則として各定期試験の受験資格を与えない。

- (2) ドイツ語 I のオリエンテーションを4月20日(木)9時30分より210番教室において行うので、ドイツ語 I 履修希望者は必ず出席すること。
- (3) 辞書の紹介は、オリエンテーションで行う。
- (4) 所属クラスの教科書は、最初の授業までに本学生協で必ず購入しておくこと。すぐに品切れになることが多いので早目に購入すること。
- (5) ドイツ語およびドイツ語の授業に関する質問や要望があれば、遠慮なく本学専任のドイツ語教官の研究室を訪ねること。

★ フランス語

フランス語の授業は下記のクラス編成で行われる。

	フランス語 I	フランス語 II
火	I A { (前期) 高橋(百) (後期) 梶野 I B 高橋(純) I C 江口	II A { (前期) 高橋(百) (後期) 梶野 II B 江口 II C 高橋(純)
木	I A 高橋(純) I B 江口 I C デュボワ	II A 江口 II B 高橋(純) II C デュボワ

注意

- (1) フランス語 II のクラス編成は前年度履修したフランス語 I に同じ。
- (2) C は会話を中心とした少人数編成(定員25名前後)のクラスで、自由選択制であるが、授業内容はハードであるから、よく考えて選ぶこと。
希望者多数の場合には抽選により決定する。
- (3) フランス語 I A・I B は学生番号順にクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (4) 再履修者は過去履修したものと同一のクラスに所属すること。ただし、I C の再履修は認めない。
- (5) 1年次生は、後日指定する日時に行うオリエンテーションに必ず出席すること。

★ 中国語

	中国語 I	中国語 II
火	A 木之内『例文中心初級中国語』 B 野澤『例文中心初級中国語』	A 木之内『標準中国語2』 B 野澤『中国の新聞を読もう』
木	A 大谷『例文中心初級中国語』 B 木之内『例文中心初級中国語』	A 大谷『愉快的北京旅游 —北京への旅』 B 木之内『標準中国語2』

注意

- (1) 中国語 II のクラス編成は前年度履修した中国語 I に同じ。
- (2) 中国語 I A・I B は、学生番号順によるクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (3) 過年度生の所属クラスについては、授業開始時に別に指示する。
- (4) 一年次生は、4月最初の授業に必ず出席して、必要な指示を受けること。

★ スペイン語

★ ロシヤ語

この2科目についてはクラス編成をとらない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目の実技2単位については、1年次毎週2時間(2単位の1/2)、2年次前期または後期に毎週2時間(2単位の1/2)の計2単位、講義については、2年次前期または後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目は、専門の基礎を与えることを目標として開設しているが、専門教育の単なる前段的なものではなく、広義の基礎を与えるとともに、一般教育の充実と統合を図るねらいをもって開設されている。

このため、学科で必修と指定した科目(昭和60年度以降入学者が該当)以外の履修も重要である。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は各学科・課程で指定した選択必修科目(商業教員養成課程は教職科目の必修を含め)のほか研究指導を含め、合計76単位を修得しなければならない。

研究指導は、毎週3時間、3年次から2カ年継続授業で12単位(卒業論文を含む)であり原則として、所属する学科・コースの研究指導を履修するものとする。商業教員養成課程に所属する学生は、学科・コースの区分を問わず、各自の志望する研究指導を履修することができる。なお、昭和59年度実質3年次生からは、英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り、教科に関する専門科目(英語科)の研究指導を履修することができる(詳細については別表(II)を参照のこと)。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導分の12単位をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。

なお、商業教員養成課程に所属する学生にあっては、経済学科・商業学科(各コース)・管理科学科の専門教育科目によって充足しなければならない。

6. 教職科目の履修方法

教職科目は、教員免許状取得のために開設されており、商業教員養成課程に所属する学生は「教職に関する専門科目」20単位が卒業所要単位に算入され、他に指定された専門教育科目を併せて修得することにより、高等学校教諭商業2級普通免許状取得資格が与えられる。

なお、別表(II)による教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち「英語科教育法」を修得すれば高等学校教諭英語2級普通免許状も併せて取得することができる。

商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で上記免許状の取得を希望する者は、別表(I)(II)の単位をそれぞれの学科の卒業所要単位のほかに修得しなければならない。

また、別表(II)で指定した科目のほか「道徳教育の研究」2単位を修得することにより、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語1級普通免許状をも取得できる。

(I) 高等学校教諭2級普通免許状(商業)取得希望者の単位修得方法

(商業教員養成課程所属以外の学生)

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する専門科目	16	教育原理 4 教育心理学 4 商業科教育法 2 教育実習 2 教育史 4	
教科に関する専門科目	20	職業指導 4	統計学, 経済原論I, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理I, 財産法I, 会社法(4科目選択)
合 計	40		
備 考		基礎教育科目の法学概論及び教科に関する専門科目の選択科目については、それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。	

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する専門科目	16	教育原理 4 教育心理学 4 商業科教育法 2 教育実習 2 教育史 4	
教科に関する専門科目	20	職業指導 4	統計学, 経済原論I, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理I, 財産法I, 会社法(4科目選択)
合 計	40		

(II) 高等学校教諭2級普通免許状(外国語(英語))取得希望者の単位修得方法

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 必 修 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する専門科目	14 (17)	教育原理 4 教育心理学 4 英語科教育法 4 教育実習史 2 (教育史 4)	
教科に関する専門科目	32	英語学関係 8	☆英語学概論 4 ☆言語学概論 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
		英文学関係 8	☆英文学史 4 ☆英文学概論 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4
		英会話・英作文 4	
		商業英語研究指導 4	4 12
合 計	50 (53)		
<p>備考</p> <p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位の外に上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。</p> <p>2. 商業教員養成課程以外の学生で、昭和61年度以前において「英語科教育法」を3単位で修得済の者は「教育史」の修得も必要となり、教職に関する専門科目は17単位になる。</p> <p>3. 選択必修科目のうち☆印は各領域から一科目必修。</p> <p>4. 「商業英語」は「英会話・英作文」又は演習科目と読み替えることができる。</p> <p>5. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生のみ履修することができ、修得単位は英語学又は英文学の単位として換算できる。</p> <p>6. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、(I)、(II)表両方の場合に併用できる。</p>			

教職関係科目開講予定

次のとおり開講するので、履修計画においては注意すること。

科 目 名	平成元年度	平成2年度
教 育 原 理	×	○
教 育 心 理 学	○	×
商 業 科 教 育 法	×	○
英 語 科 教 育 法	×	○
道 徳 教 育 の 研 究	×	○
教 育 史	○	○
職 業 指 導	○	○

○印=開講, ×印=非開講

7. 単位の互換制度

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北海道大学の特別聴講学生となる。

(1) 聴講出願対象者

学則に関する細則1. 科目履修細則第5条に規定する〔1,2年次配当科目55単位以上〕を修得した平成元年4月現在の4年次生。

(2) 聴講科目

授 業 科 目	単 位	担 当 教 官	開 講 時 期
世 界 経 済 論	4	佐 々 木	後 期
経 済 学 特 殊 講 義 I	4	吉 田(雅)	後 期
経 済 学 特 殊 講 義 II	4	宮 本	前 期
経 済 学 特 殊 講 義 VII	2	吉 野	前 期
財 務 管 理 論	4	中 村	前 期
賃 金 論	4	荒 又	前 期
産 業 技 術 論	4	吉 田(文)	後 期

① 「世界経済論」、「経済学特殊講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅶ」は本学の経済学科の専門科目、「財務管理論」、「賃金論」、「産業技術論」は本学の商業学科商学コースの専門教育科目として扱い、卒業所要単位に算入する。

② 1科目につき、20名が限度。

(3) 聴講期間

聴講科目の開講時期で前期とあるのは、平成元年4月～9月、後期とあるのは、平成元年10月～平成2年3月である。

(4) 授業料 不要

8. 昭和59年度以前入学者の履修上の注意事項

- (1) 次表の適用入学年度生においてB欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。
- (2) 次表のA欄に掲げている授業科目の単位をすでに修得済の者は、B欄に掲げている授業科目を履修することはできません。

適用入学年度	授 業 科 目	
	A 欄	B 欄
昭和55年度	英 文 学 I	英 文 学 史
	英 文 学 II	英 文 学 概 論
	英 語 (上級II)	英 文 学 演 習 I
	英 語 (上級IV)	英 文 学 演 習 II
	英 語 学 I	言 語 学 概 論
	英 語 学 II	英 語 学 概 論
	英 語 (上級I)	英 語 学 演 習 I
	英 語 (上級III)	英 語 学 演 習 II
昭和58年度以前	行 政 法	行 政 法 I
	銀 行 論	金 融 政 策
	国 際 法	国 際 法 I
昭和59年度以前	国 際 資 源 論	国 際 法 II
	経 済 変 動 論	経 済 原 論 II
	経 済 原 論 II	経 済 原 論 III
	管 理 会 計	管 理 会 計 論
	原 価 計 算	原 価 計 算 論
	経 営 分 析	経 営 分 析 論
	外国語特殊講義	外国人特殊講義
	事 務 機 械 化	経 営 情 報 論
	機 械 化 会 計	会 計 情 報 論
	応用数学特講I	応用数学特講
	計 算 機 論 I	情 報 処 理 I
	情 報 処 理	情 報 処 理 II
計 算 機 論 II	情 報 処 理 III	

9. 進級に必要な単位

(1) 1年次 → 2年次 16単位

1年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 2年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 学科または課程に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

(2) 2年次 → 3年次 55単位

2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 3・4年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 研究指導に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

この55単位の算入については次表のとおりなので、履修上注意すること。

科目	年度	昭和59年度生以前	昭和60年度生以降
一 般 教 育 科 目		28単位まで算入	24単位まで算入
外 国 語 科 目		16単位 "	16単位 "
体 育 (実技・講義)		4単位 "	4単位 "
基 礎 教 育 科 目		8単位 "	12単位 "
専 門 教 育 科 目		2年次配当科目	2年次配当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入、また商業教員養成課程については専門教育科目の外に教職科目も算入する。

IV 科目試験の受験に際しての注意事項

定期試験（前期，後期，半期制科目中間試験）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

1. 指定された席に着席すること。（試験開始5分前には着席していること）
随時行う試験では席を指定しないこともある。
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。（座席の受験番号横におくこと）
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了前10分以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借をしてはならない。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 試験において，私語，その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については，学則に照し厳重に処分されるから厳正な態度で受験すること。さらに，不正行為を行った者に対しては，その学期に履修した科目の総ての単位は認定しない。したがって，在学期間が1年以上延期することになる。
10. 配付された答案用紙は必ず提出し，これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させる。

V 卒業論文執筆要領

卒業論文の形式について一般的な原則をのべるが，専攻分野ごとに，用語・文献の引用方式・記号の利用などに差があるので，指導教官の指示に従うこと。

1. 用紙など

和文で執筆する場合には，所定の原稿用紙を使用し，黒またはブルー・ブラックのインクを用いる。油性インクのボールペンは避けた方がよい。文字は楷書とし，誤字・脱字に注意する。多色にする必要がある場合にも一定の方針をたてて統一し，さらに，必要最低限の多色化にとどめること。なお，ワード・プロセッサで作成する場合の用紙の規格，体裁及び1ページの文字数等については，指導教官の指示に従うこと。欧文で執筆する場合には，通常サイズの白地のタイプライター用紙にタイプ印刷する（いわゆるオニオンスキンは使用しない）。

2. 提出期限など

今年度は，1月31日（水）17時（時間厳守）なので十分留意すること。仮り綴じのうえ，附属図書館で図書返却の確認を受けたのち，製本料を添えて教務係に提出する。仮り綴じのためには，教務係のドリルを使用してもよい。製本料は確定次第掲示で通知する。

表紙のみ，あるいは目次程度，または序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は受理しない。

3. 表紙および裏表紙

表紙と裏表紙は本文と同一の用紙を用いる。表紙には論文のタイトル，学生番号，氏名，ゼミナール名，および提出年度（平成元年度提出）を記し，裏表紙に図書館の返却済確認印を受ける。タイトル等は原簿に記入され，成績証明書，図書館の目録カード，製本後の背表紙の書きこみ等の場合に必要になるので，正確に書くこと。なお，副題をつける場合には，その左右を棒線ではさむ。

4. 「はしがき」と「目次」

「はしがき」（「まえがき」「序」）にはテーマを選択した動機などを書く。なお，指導や助言を受けた人達，調査等に協力した人達に対する謝辞もここに書く。ただし，「はしがき」は省略してもよい。「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは，卒業論文の場合，概して不適当である。

「目次」は「表紙」または「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて，「表目次」，「図目次」を別につけ加えてもよい。

5. 本文

- (1) 文体は「……である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- (2) 新しい章は新しいページから始める。
- (3) 章題と文章、あるいは、章題と節題の間は1行あける。
- (4) 章(節)の番号と章(節)題の間は1マスあける。
- (5) 各節の間は2行あける。
- (6) 新しいパラグラフの始めは1マスあける。
- (7) 句読点などは1字とする。ただし、行末の句読点は「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行のはじめにはもっていない。
- (8) 欧字と算用数字は、原則として2字で1マスとする。
- (9) 欧文イタリック文字は、単語の下または文章の下にアンダーラインを引いて示す。

6. 図表

表とグラフは、グラフ用紙や集計表に書いて、原稿用紙の当該箇所にはりつける。場合によっては「別表」として論文の末尾にまとめてよい。原稿用紙と同じサイズになる場合にははりつけずに、そのまま1ページ分として綴じこんでもよい。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて、避けるべきである。計算機のプリントアウトは、サイズがあえば、そのまま1ページとしてよい。これらの場合に、製本のときにヘリを数ミリメートル切り落とすことがあるので、上下左右は十分にマージンをとっておくことが必要である。また、図表には出所を明記する。

7. 「注」

指定原稿用紙では「脚注」をつけることができる。しかし、1つの注を3ページ以上に分けることは不適當であるから、長い注については工夫が必要である。注は各章の終りにまとめて書いてもよい。なお、注のなかに注をおいてはいけない。

8. 引用文献、参考文献、および引用について

文献からの引用には必ず「」(欧文引用のときには“ ”)をつけ、その文献を注などで明示する。なお、原典自体のなかに「」(または“ ”)が含まれる場合には、原典中「」(または“ ”)を『』(または‘ ’)に代える。要約して引用するときには、原文の文意を損なわないようにし、更に要約引用の範囲が分るように、出典と引用箇所を(たとえば注を用いて)明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典にあたってチェックすべきであるが、やむを得ない場合には再引用であることを明記する。

引用文献、参照文献は注番号を明示したうえで、脚注部分に記載するか、または論文末尾(または各章末尾)に一括して記載する。文献記載の原則は次のとおりである。

和書

著者名『書名』, 出版社名, 出版年。

または

著者名『書名』(出版社名, 出版年)。

引用ページを明示する場合には、このあとに引用ページを書く。

〈例〉 小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』, 岩波書店, 1972年, PP, 8—10。

藤瀬浩司『資本主義世界の成立』(ミネルヴァ書房, 1980年), 56頁。

翻訳書の場合にも

〈例〉 J. ブーヴィエ(井上隆一郎訳)『ロスチャイルド』(河出書房新社, 1966年), 第3章。

R.A. Mundell, *International Economics*, New York: Macmillan, 1968,

(渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』, ダイヤモンド社, 1971年)。

などが通常の形式である。(なお、以上は文献を引用するときの原則であるから、提出卒業論文の表紙のタイトル全部を『』でかこんでならない。)

和雑誌のなかの論文(および論文集の中の一つの論文)

著者名「論文名」, 『雑誌名』第△△巻, 第△号(発行年)。

著者名「論文名」, 編者名『書名』出版社名, 出版年。

(または、著者名「論文名」, 『書名』(編者名)出版社名, 出版年)。

などとする。

〈例〉 関口尚志「イングランド銀行バーミンガム支店」, 『経済学論集』(東京大学)第47巻第2号, ××頁。

岡田純一「近代経済学とスミス」, 経済学史学会編『国富論の成立』, 岩波書店, 1976年, P. 345. (複数ページの場合, PP. 345—351.)

洋書および洋雑誌のなかの論文

著者名, 書名, 出版地: 出版社, 出版年

注(1)

著者名, “論文名”, 雑誌名, Vol. 巻数, No. 号数(発行年)

等とする。ただし、出版地: 出版社を()に入れることもある。また“論文名,”雑誌名の代りに“論文名”, 雑誌名とすることも多い。著者名は A. Smith とする場合と Smith, A. とする場合の両方があるが、著者名が2つ以上並ぶ(共著の)場合に、2人目以後の人名については、A. Smith (または Adam Smith) のようにファースト・ネームを先に書くのが一般である。雑誌の No. 号数はしばしば省略する。また、Vol. および No. の代りに vol. および no. とすることも多い。

これらについては、標準的な図書および雑誌を参照して、もっとも適當と思われるものを選択したうえで、統一して使用する。

さらに、op. cit., loc. cit., Ibid., (または ibid.,) 等もよく利用される辞書などで意味を調べて、誤用しないことが必要である。

参考文献

米国現代語学文学協会編 (原田敬一訳編) 『MLA新英語論文の手引』 (北星堂書店, 第2版, 1986年)。

トウラビアン著 (高橋作太郎訳) 『英語論文の書き方』 (研究社出版, 1982年)。

※ この要領をまとめるに当っては、何人かの教官の御協力をいただいたが、とくに、『井上ゼミナール用卒業論文執筆要領』と佐竹教官がまとめたメモとを参照した。

注(1) 書名, 雑誌名についてアンダーラインはイタリックを使用せよという指示である。

注(2) op. cit., loc. cit., Ibid., は、引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかによって変わる。

<例> op. cit., (前掲の意味) で前掲が、論文名であればローマン体, 前掲が書名, 雑誌名であればイタリック体を使用する。

loc. cit., (上記引用文中), Ibid., (同上) も同様である。

なお, Ibid については、先頭に来る時は大文字となる。

VI 平成元年度開講科目の講義要目

目 次

1 一般教育科目	23
2 外国語科目	29
3 保健体育科目	47
4 基礎教育科目	50
5 専門教育科目	55
6 教職科目	88
7 研究指導	90

1 一般教育科目

哲 学

教授 渡 辺・祐 邦

過去の偉大な哲学者の著作を読みながら、存在の問題、真理の問題、実存の問題等の哲学の基本的問題を考えます。今年度は、昨年に引きつづきヘーゲルの『小論理学』をテキストとしますが、教官が一方向的に講義するのではなく、学生自身がテキストを自分で読み、教官の質問に答えるという方法で進めますので、最初に現代ドイツの大哲学者アドルノの『三つのヘーゲル研究』の中の「ヘーゲルをどう読むか」を集中的に読みます。なお、このほかに二年目以上でフランス語Ⅱ終了に相当する学力をもつ学生には、文献研究を主とするコースを設けるので、希望者は申し出ること。

テキスト：

Th・W・アドルノ『三つのヘーゲル研究』渡辺祐邦訳，河出書房新社。

ヘーゲル『小論理学』上・下，松村一人訳，岩波文庫。

倫 理 学

教授 渡 辺 祐 邦

共同存在としての人間の行動原理、とくにボリスの人間の存在構造を分析した最初の著作であるアリストテレスの『政治学』を読みながら、現代における人間の在り方とそこに日々提起される諸問題について考えます。アリストテレスのテキストはギリシア語なので、学期はじめに簡単なギリシア語文法を学び、翻訳と並用します。

テキスト：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』，岩波全書

アリストテレス『政治学』山本光雄訳，岩波文庫。(アリストテレスの原文テキストは、ギリシア語の学習が十分と判断された人へのみ、のちほど差し上げます。)

心 理 学

教授 和 田 完

現代心理学の特質を、歴史的な成立の過程を通して検討する。行動主義的な方法の導入、力動的な考え方などが特に強調されよう。また、動機づけ、学習実験、認知、ことに知覚の問題、パーソナリティ論等が話題とされる。

なお、精神病理学、文化人類学等の隣接領域について、しばしば触れるであろう。

テキスト：和田完・馬場雄二著『人間』明玄書房

歴 史 学 A

助教授 荻 野 富士夫

大教室の講義です。

最近の一連の事態の進行は、多くの人々に日本の近現代の軌跡——戦争と平和の諸問題——への関心を高めたといえます。この転回点にあたり、「昭和」の歴史を再検討してみることになります。十五年戦争の本質と実態、戦後民主主義による達成と非達成、高度経済成長以後の光と影の諸相を基軸に、社会運動史・思想史・女性史への視野を含め、一週一テーマを原

則にして通史的概観を試みます。映画・ビデオ・スライドなども上映します。

導入として小樽や小樽商大の歴史にも触れ、機会があれば街を歩く予定です。

これまでの反省から、一方的な講義にならないよう努めます。そのためと出席率向上のために、年に数回のアンケートを授業中に実施します。

テキストは、『昭和史』（有斐閣選書）を用いますが、毎回のテーマに即した史料もプリントして配布します。

評価の方法は、①日本近現代史に関する自由研究——400字詰30枚以上、学年末提出、②日本近現代史上における古典的著作ないし研究書（新書程度）に対する批評的レポート——年間三回、各10枚以上、のいずれか選択と教場試験、および上記のアンケート提出状況とします。

歴史学 B

助教授 荻野富士夫

少人数による日本近代史の演習形式の授業です。

具体的なテーマは、以下の三つあたりのなかから参加者と相談して決めます。その共通テーマのなかから各自が課題を設定し、調査検討し、発表・討論をおこなってもらいます。

- ・北海道史の研究（経済研究所の蔵書・資料などを活用しながら）
- ・『小樽新聞』の研究（『小樽新聞』は現在の『北海道新聞』の前身の一つ。図書館蔵のマイクロ・フィルムを用いて）
- ・近代文書の解読・研究（おもに明治期の文書を写真版で）

日本文学 A・B

教授 村山 出

AとBの二つのクラスを設けます。それぞれの授業の形態が異なるので、よく考えて選択してください。

Aクラスは、大人数を対象に講義をします。今年度は、『万葉集』の代表的な歌人を取り上げて、その文学的特質は何か、歴史とどのようにかわるのか、といった視点から考えてみようと思います。

下記の教科書を必ず用意すること。

Bクラスは、少人数で演習形式をとります。『万葉集』には、古代の人びとが、どのような信仰をもったか、自然をどう見ていたか、どのような愛があったか、死にいかに対したか、など、日本人の心の形成を知るのに重要な手がかりとなる歌が少なくありません。自分で随意に課題を選び、資料を作り、学習の報告をし、最終的にはレポートにまとめてもらいます。

下記の教科書を用意すること。

なお、今年度は実施しませんが、来年度は、万葉歌人の生活した自然や旧跡を求めて、奈良・明日香地方を旅行しようと考えています。今年度のBクラスの受講者は、これに参加できます。

A・B共通の教科書：伊藤博校注『万葉集』上下2冊（角川文庫）

英 文 学

教授 豊国 孝

英国の小説家D.H. ロレンスをとりあげる。ロレンスの小説は、写実と象徴の見事な調和、とくに豊かな詩的イメージで読者を魅了する。彼のテーマは広い意味での「人間関係」である。ロレンスほど現代社会にあって、人間が一人では生きられないこと、つまり「人間関係」があってこそ、人間が人間たりうることを信じていたものはいない。

この講義では、ロレンスの主要な小説を中心にして、D.H. ロレンス論を試みる。受講者はロレンスの小説を積極的に読むことを希望する。

テキスト：中橋一夫『ロレンス』（研究社）

D. H. Lawrence, *Sons and Lovers* (桐原書店)

ドイツ文学

教授 中川 勇 治

本年度は、ドイツ文学におけるユートピア思想の表現を講義のテーマとします。元来、英米文学に較べて、ドイツ文学の作品にはユートピア思想を核心に持つものが少ないのですが、それでも、今世紀に入ってからは、ヘルマン・ヘッセの『ガラス玉遊戯』とか、エルンスト・ユンガーの『ヘリオポリス』などのユートピア小説が書かれています。ローベルト・ムジルの『特性のない男』は、ユートピア思想の理解がなければ、正當に評価しがたい、とさえ主張できるでしょう。具体的には、プラトン、トマス・モアなどからA.ハクスレーや、G.オーウェルに至るユートピア思想の史的変遷を概観して、ユートピアがなんであるかを考察します。ついで、この知識を土台としながら、個々の作品（主として小説）がユートピアのいかなる位相を示しているか、という問題を扱うことにします。

参考文献等については、随時、講義の中で紹介します。

社 会 学

助教授 笹谷 春 美

(北海道教育大学助教授)

社会学という学問は、人類史のどのような段階に、どのような社会的要請の下で登場してきたのだろうか。「社会学」という言葉がはじめて使われたのは19世紀中葉のヨーロッパにおいてであった。この時代は、旧い封建社会から新しい近代市民社会・資本主義社会への移行をめぐる“嵐のような”時期であった。この激しい歴史の変動下において、人々ははじめて自らの存在とは異なる「社会」を客観しうるようになったのである。従って、社会学に一貫している問題意識は、「社会」は今後如何なる展開をとげるのか、そして、社会において「個人」はいかなる位座を占めるのか、を問うことにある。

授業では、〔前期〕社会学の成立と展開、及び基本的方法論を、マクルス主義社会論との対比・接近の過程を関連させながら把え、〔後期〕では、戦後日本社会のドラスティックな社会変動の実態を、都市・農村等の地域社会及び現在論議の渦中にある家族集団の領域を中心として明らかにし、そこで生じている問題点を把握しながら、今日に生きる私達の社会と個人、社会と人間の関係のあり方を考察することとする。

テキスト、参考文献は後日指定する。

社会思想史

教授 倉田 稔

Aは、大講義で講師が話をするものです。

Bは、少人数クラスで主に学生の自主研究です。

Aの1989年授業予定は、以下です。

1. 前置き
2. 序論—省略
3. 危険な話
4. 19世紀後半ドイツとハプスブルク、特にベーベル
5. ヒルファディング
6. 学問について、論文の書き方、文章の書き方
7. 19世紀後半ロシア、特にチュルヌイシェフスキー
8. 19世紀社会文学
9. 19世紀後半日本
10. 20世紀初頭の問題
11. むすび

Bでは、主に研究発表会を行います。

今年は、1年生から3年生、およびノン・ゼミの4年生のみ、原則として受け入れます。

Bを履修する人は、担当講師まで研究室に話し合いに来て下さい。

当該時間の初めおよび次の週の、合計2週間で受け付けます。つまり第3週目から始めます。

今年は正式履修者の数をしぼります。そのため、正式メンバーが確定するまで、初めは毎週出席を願います。欠席者はそれまで自動的に放棄したものと見ます。

年3回の研究発表をしてもらいます。その間、種々の冊子類の輪読会をします。

ABとも小学術論文を出して貰うこととなります。

教育学

(前期) 非常勤講師 黒川 昭和

(藤女子大学教授)

古来、教育は、結局、人にあり、と言われている。教師の問題が特別に論じられるのも、教育の目的・目標の実現は、究極的には児童・生徒と直接にかかわる教師いかにある、と考えられているからであろう。教育職員免許法も改正され、教育実習の単位も3単位となった。本講は、「教育実習とは何か」を中心に、教師の養成について考える予定である。教科書代として、2,500円用意のこと。

(後期) 助教授 上野 耕三郎

未定

政治学

非常勤講師 相内 俊一

(北海道教育大学助教授)

政治現象に対する政治心理学的アプローチを中心に講義を行う。

夏期休暇に入る2週間前に、各週の講義内容、準備しておくべき課題、必読及び参考文献、評価方法等が記載された「講義細目」を教務係掲示板に掲示するので、受講の判断と準備をして欲しい。

主として2年生程度の基礎知識と理解力を前提に講義を行うつもりである。

物理学

教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説を行う予定。

自然科学概論

(前期) 教授 原田 稔

個別科学の発展史とか、“完成品”としての科学の紹介ではなしに、“発展・成長途上の物”としての科学について話をしたい。極言すると“答のない問題”について考えようとするわけである。話はどうしても抽象的になるので具体性を与える足場として物理学を用いる。教科書は使用しない。

(後期) 教授 山田 家正

自然科学と社会の接点を生物学の立場から考える。自然科学、とりわけ生命科学は今世紀後半から我々の日常的な生活に大きな影響を与えるようになった。DNAの構造解明が、その後の社会にどのような形で影響を与えてきたかという一例を考えても容易に理解できる。講義では、身近な問題をとりあげて、学生諸君が自ら深く考究する場を与えるつもりである。

化学(前期・夏季集中)

非常勤講師 木村 雅男

(北海道大学名誉教授)

現代の化学を系統的に理解し、化学的な物の見方とはいかなるものかを把握することを期待する。そのため、化学の基礎原理の説明を中心にし、さらに、現代化学のトピックスを取り上げて化学の現状について話す。各論よりは総論に重点を置く。

教科書：「生活科学の基礎 化学基要」 林 太郎著、裳華房
一般教育の化学

生物学A・B

教授 山田 家正

生物学Aと生物学Bの2クラスがあり、内容が違い途中からの変更はできない。

生物学A：講義中心の大人数クラス。テーマは進化をめぐる諸問題である。分子レベルから個体、集団まで幅広い題材により、地球上に誕生した生命がどのようにして現在に至ったのかを考える。教科書は使用しないがプリントを配布するので活用して欲しい。

生物学B：演習中心の少人数クラス。積極的に学ぶ姿勢が要求される。内容については、履修人数によるので最初の講義時にきめる。多くても10人程度を予定している。

臨海実習：生物学恒例の「ウニの受精と発生」の観察を9月上旬に、小樽市忍路（オショロ）町の北大臨海実験所で行う予定。生物学A、Bとも原則として必修。夏休み前にガイダンスを行う。

2 外国語科目

英語

英語 I A 群

- E101 教授 永原和夫
Ernest Hemingway: *The Killers and Other Stories*. (南雲堂 ¥940)
Ernest Hemingway: *The Old Man and the Sea*. (南雲堂 ¥780)
Hemingway (1899—1961) の短篇と名作中篇小説『老人と海』を読む。彼のきびきびした外面描写と人生観を理解するよう努める。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失うので注意。
 - E102 教授 豊国 孝
H.E. Bates: *The Wedding Party and Other Stories*. (金星堂)
イギリスの小説家ベイツの短編小説を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。
 - E103 助教授 君羅久則
テキスト: Muriel Spark, *The Portobello Road & Other Stories*. (朝日出版)
Muriel Spark, *Voices at Play*. (松柏社)
 - E104 } (前期) 非常勤講師 伊藤義生
◦ E105 } (藤女子大学教授)
- 現時点でテキストは未定であるが、アメリカ文学の短編集を読む予定である。個人分担制で授業を進めていく。質疑応答・出席率は評価に重大な影響を及ぼす。詳細については開講時に説明する。
- (後期) 助教授 杉村泰教
* *Four English Short Stories (I)* (英潮社新社, ¥1,200)
英国の代表的な作家の短篇小説を読む。予習を重視する。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。
 - E106 非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)
B. Malamud: *Man in the Drawer* (英宝社)

素材はアメリカの現代作家の短篇である。講読を通して、現代英語の様々な表現に習熟するように努めたい。

◦ E121

助教授 下村 五三夫

教科書: *English for Computer Science* (Norman D. Mullen & P. Charles Brown) Oxford University Press. 2,050円

コンピュータについての基本的な英語を学習します。読解の文章では、大型からミニおよびマイクロ・コンピュータに関する情報や操作方法について知ることができます。

出席とクラスへの積極的参加を重視します。遅刻は認めません。

*教科書は市内紀伊国屋書店でのみ購入できます。

◦ E122 }
◦ E123 }

助教授 山本 久雄

John Tilmant, *Foundations of American Culture* (成美堂, ¥980)

本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。いかなる理由があろうとも1/3以上の欠席回数者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

◦ E124

助教授 津曲 敏郎

A. Bloomfield: *The Great Unknown* (マクミラン・ランゲージハウス, ¥1,200)

今なお世界のあちこちに残るさまざまな「不思議」をめぐる読み物。興味深い内容を手がかりとして、読解力向上をめざす。いかなる理由があっても前期5回以上、通算8回以上欠席した者は、その時点で履修資格を失う。

◦ E125

非常勤講師 高井 収
(小樽商科大学短期大学部講師)

テキスト:

1. B.S. Mikulecky and L. Jeffries: *Reading Power* (Addison-Wesley 出版社, ¥2,700)

2. E. Yukawa and C. Yatsushiro: 『異文化間コミュニケーションの実践知識』 (金星堂, ¥1,200)

このクラスでは速読による英文読解力の向上を目的とする。

前期は、特に読解力養成のため、テキストの練習問題を通して、基礎的な訓練を行う。後期には、その基礎的訓練で得た知識の応用を目的とする。

クラスの進め方は、質疑応答によって内容の理解をチェックし、問題点を討論して行く。

評価には、出席状況及び学生の積極的な参加を重視する。

B 群

◦ E107

非常勤講師 横尾 元意
(北海道武蔵女子短期大学教授)

Modern British Masterpieces. (金星堂)

上記の教科書を素材として、イギリス文学の理解に不可欠と思われる宮廷風恋愛、貴族崇拜 (Snobbery) などの概念に触れていきたい。輪読形式になるので出席状況と各自の発表内容を重視する。

◦ E126

非常勤講師 根本 慎
(札幌医科大学衛生短期大学部助教授)

テキスト:

前期: M. Hashimoto et al., *A Guide to Paragraph Reading* (朝日出版社, ¥1,300)

後期: 未定

前期では、パラグラフ構成についての理解を深めていただくと考えております。授業への出席を重視します。出席時間数が全体の3分の2に満たない場合は成績評価をしません。

◦ E127

非常勤講師 下宮 英治
(北海道武蔵女子短期大学教授)

現在アメリカが抱えている問題を日本とのかかわりの中で考えながら、次のテキストを講読する。口頭発表、レポート作成を重視。出席率が規定に達しないものは失格とする。

テキスト: *Today's Changing America* (Vance E. Johnson.) (桐原書店)

◦ E141 }
◦ E142 }
◦ E143 }
◦ E144 }

外国人教師 Michael Carr

Harrison & Menzies, *Orbit 1* (Oxford University Press) ¥1,700

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation are required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from roleplays in class and from weekly comprehension tests in the language laboratory.

◦ E145 }
◦ E146 }

非常勤講師 Mathew M. Hanley
(北海道大学外国人教師)

Text: *A Weekend Away: Activity Book*

The aim of this class will be to improve your speaking and listening abilities. Our text is based on the video series, *A Weekend Away*. You will be

expected to spend much of our time roleplaying in English. A pronunciation course will be included in the curriculum.

Requirements: class participation, attendance, and satisfactory grades on the mid-term and final examinations.

◦ E147 }
◦ E148 }

非常勤講師 Stephen Toskar
(小樽女子短期大学助教授)

Texts: ① Marc Helgesen, et al, *English Firsthand* (Lingual House)

② Raymond Murphy, *Grammar in Use* (Cambridge University Press)

The purpose of this course will be to build on and improve our ability to speak in English. Although we will concentrate on communicative interactions in class, students will also be expected to buy and use *Grammar in Use* as a reference for home study.

Grades will depend on active class participation, individual and group presentations, quizzes and tests.

◦ E149 }
◦ E150 }
◦ E151 }

非常勤講師 Timothy Grose
(札幌学院大学講師)

教科書: 未定

使用教科書は13日以降掲示板で連絡するので注意すること。

授業の進め方、評価等については最初の講義の時に説明する。

◦ E161

助教授 下村 五三夫

教科書: *A Practical English Grammar* (A. J. Thompson & A. V. Martinet)

Oxford University Press ¥1,400

外国語の習得にはその形式構造の把握が不可欠です。このクラスでは英語のシンタクスを中心に学習することになります。

出席とクラスへの積極的参加を重視します。遅刻は認めません。

このクラスに合格すると英語共通試験は合格したことになります。

*教科書は市内紀伊屋書店でのみ購入できます。

英語 II

◦ E201

教授 永原 和夫

Carson McCullers: *The Heart is a Lonely Hunter* (Penguin, ¥1,600)

Carson McCullers (1917-67) の処女作『心は悲しき獵人』は、現代人の孤独をあつかった名作である。比較的平易な英語で書かれているのでスピードを上げて読む。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失うので注意。

◦ E202

教授 豊国 孝

D. H. Lawrence: *The Man Who Loved Islands* (桐原書店)

H. E. Bates: *The Lighthouse* (北星堂) ¥680

イギリスの小説家ロレンスとベイツの短編小説を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

◦ E203

助教授 君羅 久則

テキスト: Muriel Spark, *The Go-away Bird*. (朝日出版)

◦ E204 }
◦ E205 }

(前期) 非常勤講師 本城 誠二
(北海学園大学助教授)

Richard Brautigan, *Selected Stories* (Nan'un-Do)

現代アメリカの重要な作家だったブローティガンの短編集を取り上げます。Mark Twain, E. Hemingway につらなるアメリカ的語りの伝統と、Beat 作家の反抗的姿勢を合せ持つ、この作家の作品から現代のアメリカを読んでみたいと考えます。

(後期) 助教授 杉村 泰教

Thomas Hardy, *To Please His Wife & Other Stories* (成美堂, ¥840)

トマス・ハーディの短篇小説を読む。予習を重視する。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。

◦ E206

非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)

R. Jones: *Sapporo Sketchbook* (弓書房)

素材は、かって来日した英国人である著者が、その札幌の印象をフィクションとしてまとめたものである。講読を通して現代英語の読解力の習得に努めたい。

- E207 }
- E208 }

非常勤講師 西村千稔
(小樽女子短期大学教授)

アメリカの現代作家数名の短編を読む。最初はプリントから始める(教務窓口で配付する)洞察力を養うことを授業の目的とする。そのために様々なアプローチの存在を認め作品を自由に解剖することから始める。

注意事項: どのような理由があっても、授業実施時間数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ受験資格を失う。

テキスト: 江草久司編注『現代アメリカ名作選』朝日出版社, ¥1,200

参考文献: 『スタインベック研究』(八潮出版社)

- E209

非常勤講師 宮町誠一
(小樽女子短期大学助教授)

基本的には現代アメリカ人作家の短編作品を読み、英文テキストのより深い読解力の養成を目的とする。同時に、英語の音声面にも配慮し、毎時間、英語聴解の時間を設ける。出席重視。テキストはプリントで配布する。

テキスト Toshio Ishikawa, *Colloquial Expressions for Daily Life*
NCI ¥1,100

- E210

非常勤講師 宮町誠一
(小樽女子短期大学助教授)

現代アメリカ人作家による短編作品を精読し、英文テキストのより深い理解力の養成に努める。特にアメリカ文化との価値観の相違に関心を向けて、読み込みたい。

テキスト John F. Povey, *Literature for Discussion* HBJ ¥2,700

- E221

(前期) 助教授 下村五三夫

教科書: Susan Sontag, *On Photography* 英宝社, ¥980

写真の起源から今日の映像文化に至る鋭い批評と分析の書を講読します。出席とクラスへの積極的参加を重視します。遅刻は認めません。

*教科書は市内紀伊国屋書店でのみ購入できます。

(後期) 助教授 杉村泰教

Bertrand Russell, *The Conquest of Happiness* (南雲堂, ¥1,200)

ラッセルの『幸福論』を読む。予習を重視する。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。

- E222

助教授 山本久雄

Text: Pearl S. Buck, *The People of Japan* (成美堂, ¥880)

本授業は、英文解釈力の向上及び内容把握を目的とする。いかなる理由があろうとも $\frac{1}{2}$ 以上の欠席回数者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

- E223

助教授 津曲敏郎

M. K. Snyder: *Solo in China* (三修社, ¥1,200)

中国は日本にとって巨大な隣国でありながら、現実の姿はあまりよく知られていない。テキストはアメリカ人旅行者の目を通して見た中国庶民生活の紹介であると同時に、アメリカや日本との比較文化論にもなっている。いかなる理由があっても、前期5回以上、通算8回以上欠席した者は、その時点で履修資格を失う。

- E224

助教授 大島稔
(小樽商科大学短期大学部)

①Hasegawa & Jones: *Understanding Life Styles, East and West*. 英潮社新社

②G. Althen: *American Ways*. マクミラン・ランゲージ・ハウス

教科書①は、日本人から見て不可解に思うアメリカの文化・習慣に新聞投書欄を通して答えるという内容で、教科書②は、アメリカ文化のさまざまな側面を見ることにより異文化理解を図ろうとする内容である。

テープを用いた聞き取りによる大意の把握と英問英答による情報確認、さらに鍵となる語句、文を捉えて要約へと進む。

評価は、クラス内の活動への積極性、授業中の小テスト、定期試験での筆記テストの点数を総合的に考慮します。

- E225

非常勤講師 浪田克之介
(北海道大学教授)

基礎的読解力の養成を目的として、平明な英文をできるかぎり多く読むことにしたい。

テキスト: Bob Greene, *Be True to Your School*

(洋書なので、洋販に発注してあります)

- E226

非常勤講師 高橋英光
(北海道大学助教授)

テキスト: Sydney Harris のコラム (プリント配布)

米国の新聞に載った物を集めて読む。内容は社会の多岐な方面に及んでいる。 $\frac{2}{3}$ 以上の出席のない者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

- E227 }
- E228 }

非常勤講師 鈴木良克
(小樽女子短期大学教授)

Dale Carnegie: *Our Mental Attitude* (英宝社, ¥960)

◦ E229

非常勤講師 根本 慎
(札幌医科大学衛生短期大学部助教授)

テキスト: P. Milward, *Aspects of English Culture* (北星堂)

◦ E230

非常勤講師 下宮 英治
(北海道武蔵女子短期大学教授)

アメリカの名コラムニストの目を通したアメリカ社会と人間像を、次のテキストによって講読する。口頭発表、レポート課題を重視。出席率が規定に達しない場合は失格となる。

テキスト: *Egg On The Face* (Russell Baker) (桐原書店)

◦ E241 }
◦ E242 }

外国人教師 Michael Carr

Harrison & Menzies, *Orbit 2* (Oxford University Press) ¥1,700

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation are required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from roleplays in class and from weekly comprehension tests in the language laboratory.

◦ E243

非常勤講師 Mathew M. Hanley
(北海道大学外国人教師)

Text: (Provided by the instructor)

This is a course in functional English. The aim will be to improve your ability to communicate in English in real-life situations. I will provide the materials and situations, but you will have to perform them. The focus will be on speaking and listening with special emphasis on practical conversational skills and listening for specific information. Requirements are class participation, faithful attendance, and passing grades on the mid-term and final examinations.

◦ E244

非常勤講師 Stephen Toskar
(小樽女子短期大学助教授)

Texts: ① Marc Helgesen, et al, *English Firsthand Plus* (Lingual house)

② Raymond Murphy, *Grammar in Use* (Cambridge University Press)

The purpose of this course will be to further develop speaking skills in English. Although class activities will concentrate on communicative interactions, students will also be expected to buy and use *Grammar in Use* as a reference

for home study.

◦ Grades will depend on active class participation, individual and group presentations, quizzes and tests.

英語 III

◦ E301

教授 永原 和夫

Aldous Huxley: *Brave New World* (Granada, ¥1,600)

Huxley (1894—1963)が1930年に書いたSF小説『すばらしき新世界』は、試験管ベビーや遺伝子操作がおこなわれる現代そのままである。最初の部分は生理学用語が頻出し取り組みづらいが、次第に格調高い英文を楽しむことができる。スピードを上げて読みたいと思っている。どんな理由があっても2/3以上出席しない者は受験資格を失うので注意。

◦ E302

教授 豊国 孝

D. H. Lawrence: *Three Novellas* (Penguin Books)

イギリスの小説家D. H. ロレンスの中編小説を読む。2/3以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

◦ E303

助教授 君羅 久則

テキスト: Muriel Spark, *The Girls of Slender Means*. (新日本教文大学社)

◦ E304

非常勤講師 菊池 昭
(小樽商科大学短期大学部教授)

Erskine Caklwell, *Deep South* (英光社, ¥800)

毎週の十分な下調べと、欠席しないことが必要条件。7回以上欠席した者の成績評価はしない。

◦ E305

非常勤講師 横尾 元意
(北海道武蔵女子短期大学教授)

Text: W. Shakespeare, *Antony and Cleopatra* (篠崎英米文学研究叢書(4))

四大悲劇に続いて書かれた *Antony and Cleopatra* には Shakespeare の円熟した感性と技巧が充分示されている。授業は受講者に50行くらいずつ分担してもらい講読していく。従って、出席状況と各自の発表内容を重視する。

◦ E321

助教授 下村 五三夫

教科書: R. McRum, W. Cran & R. MacNeil, *BBC: Story of English*

(英宝社, ¥1,100)

NHK教育放送でも放映されましたが、その教科書版です。インド・ヨーロッパ祖語から
チャーサーまでを略説した *The Mother Tongue* の章と、英語がエリザベス朝で開花し
英語拡散の第一歩となるまでを略説した *A Muse of Fire* の章を講読することになります。
出席とクラスへの参加を重視します。遅刻は認めません。

*教科書は市内紀伊国屋書店でのみ購入できます。

◦ E322 助教授 山本久雄

Text: Danill J. Boostin, *The Communities of Knowledge* (英宝社, ¥1,100)

本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。いかなる理由があろうとも1/2以上
の欠席回数者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

◦ E323 助教授 津曲敏郎

M. L. Geis: *Language and Communication* (英潮社新社, ¥1,200)

コミュニケーションに重点を置いた言語学の入門書。扱っている範囲は広いが、内容は比較
的平易である。いかなる理由があっても、前期5回以上、通算8回以上欠席した者は、そ
の時点で履修資格を失う。

◦ E324 外国人教師 Michael Carr

D. A. Cruse, *Lexical Semantics* (Cambridge University Press) ¥3,380

This is an advanced course restricted to earnest students. We will read about
current issues in theoretical semantics and discuss them in English. Attendance
is strictly required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades
will be determined from participation in class discussions, from occasional
tests, and from compositions which must be typewritten.

◦ E325 非常勤講師 浪田克之介
(北海道大学教授)

まとまった内容として評伝を利用して英文の読解力をつけることをめざす。

テキスト: C. P. Snow, *Variety of Men* (英宝社)

◦ E326 非常勤講師 高橋英光
(北海道大学助教授)

テキスト: デニス・キーン, 松浪有 *Problems in English* (研究社)

a と *the*, INFINITIVE と -ING の意味の違いなどを理解して、英語の感覚を磨くための
読み物です。2/3以上の出席のない者は、受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

ドイツ語 I

I A (火曜日)

非常勤講師 クラウディア・バイル
(北海道大学外国人教師)

教科書: 「対話のドイツ語」(Hieber・秋葉・猪股著, 三修社, 1,800円)

I A (木曜日)

助教授 寺田龍男

このクラスは火曜日にバイル先生が担当されるクラスの文法面を担当します。同じ教科書
を使用しますので毎回忘れずに持って来て下さい。なお単にドイツ文法を学ぶだけでなく会
話クラスとの「橋渡し」も行いたいので、さしあたり補講を毎週行う予定です。

I B (火曜日)

教授 中川勇治

テキスト: 宮内, C. Webers 著『初級文法読本 ふたつのドイツ』三修社, ¥1,300円

「習うより慣れよ」は、外国語学習の鉄則です。みずから辞書を引いて、ドイツ語の語彙
を豊かにし、表現に慣れることが大切です。文法知識は欠かせませんが、反復練習によって
言葉の勘を鋭くしてください。それが肝心です。

I B (木曜日)

非常勤講師 吉岡義彦
(北海道大学助教授)

教科書: 当分のあいだプリント(教室で配布します)。

文法を軸に、ドイツ語の構造を把握し、運用能力の基礎を固めることを目標とします。教
室内での練習が大きなポイントになりますので、出席は特に重視します。

I C (火曜日)

非常勤講師 橋本 聡
(北海道大学講師)

教科書: 「対話のドイツ語」(三修社)

I C (木曜日)

助教授 大塚 讓

教科書: 「最新コンパクト・ドイツ文法」(信岡資生著, 芸林書房, 1,200円)

文法の学習は一步一步着実に勉強して行くことが肝心です。その意味で出席を重視します。
初回到授業への参加心得を説明しますので、必ず出席して下さい。

I D (火曜日)

助教授 大塚 讓

教科書: プリント

実用練習を中心にドイツ語の初歩を勉強します。初回到授業への参加心得を説明しますの
で、必ず出席して下さい。

I D (木曜日)

助教授 加納 邦光
(北海道大学助教授)

教科書:「練習問題で学ぶ簡易ドイツ文法」(清水・中村・西村・森著,芸林書房)
1,200円

ドイツ語文法の基礎を学びます。予習をして授業に出るようにして下さい。試験は前期・後期の定期試験期間内に行います。出席は毎回とります。休んでいるとついてこれなくなります。特に3分の1以上欠席した学生は、単位を取るのがきわめて難しくなります。今年度は授業中にも試験をする予定です。

I E (火曜日)

助教授 寺田 龍男

このクラスでは木曜日に野田先生が使用される教科書に基づいて色々な練習を行います。その教科書は毎回必ず持って来て下さい。教材についてはこちらでプリントを配布します。

I E (木曜日)

(前期) 非常勤講師 野田 克己
(北海道大学助教授)

(後期) 非常勤講師 副島 博彦
(北海道大学講師)

次のテキストを用います。

吉岡義彦著「不定詞句中心 新しいドイツ文法」(白水社)

練習問題が豊富で、いわば「積み重ね方式」でドイツ文法を一通り終えるようになっています。独特な工夫がしてありますので、毎回出席すれば、スムーズにドイツ語に慣れることができると思います。なお、授業の進め方その他については、最初の授業時間に詳しく説明します。

ドイツ語 II

II A (火曜日)

非常勤講師 クラウディア・バイル
(北海道大学外国人教師)

教科書: (1) Lernziel Deutsch, Grundstufe I (Wolfgang Hieber著 Max Hueber社
1983年刊)
(2) Glossar (上記教科書の用語解説)

II A (木曜日)

助教授 大塚 譲

教科書: プリント

初回から授業をします。文法教科書第12課から。文法終了後はビデオ教材等多様な教材を使用して、現代ドイツの諸問題に触れながら平易で標準的な現代文の理解に努めます。グループ別発表方式を採ることもありますので積極的な学習態度を期待します。初回は必ず出席して下さい。

II B (火曜日)

教授 中川 勇治

テキスト: 川瀬志貴郎編『だれかさん』 朝日出版社, 1,200円

まず、昨年度に使用した教科書の未習部分を終えてから、現在、ドイツ語圏で著名なクリスティーネ・ネストリンガー女史のメールヒェンを読みます。ただし、この作品は、大人のためのお伽話とってよく、大学生の読物として、なんら遜色ありません。授業参加者は、積極的にみずからの力で読み進んでください。

II B (木曜日)

非常勤講師 加納 邦光
(北海道大学助教授)

教科書:「グリュック:ライン」(マンフレット・グリュック著,郁文堂) 1,300円

ドイツだけではなく、ヨーロッパを代表するライン河について、様々な角度から紹介しているテキストです。本文や練習問題の予習をして、授業に出るようにして下さい。試験は前期・後期の定期試験期間内に行います。出席は毎回とります。3分の1以上欠席した学生は、単位をとるのがきわめて難しくなります。

II C (火曜日)

助教授 大塚 譲

教科書: プリント

ビデオ教材等多様な教材を使用して、現代ドイツの諸問題に触れながら平易で標準的な現代文の理解に努めます。グループ別発表方式を採ることもありますので積極的な学習態度を期待します。尚、最初の何回かは旧教科書を用いますが、初回の学習箇所は別途掲示します。初回は必ず出席して下さい。

II C (木曜日)

非常勤講師 吉岡義彦
(北海道大学助教授)

当分教科書は使わず、授業中にプリントを配布します。最初は、1年のときに習得した文法を読解にどう生かすかを重点として授業を進めます。出席を重視します。

II D (火曜日)

非常勤講師 橋本聡
(北海道大学講師)

教科書：「会話で学ぶドイツ語」(三修社)

II D (木曜日)

助教授 寺田龍男

前年度ドイツ語 I D で配布した教材を継続して用います。ただし読解テキストの比重を少し大きくし、作文をその分減らします。いくぶん予習しやすくなる筈ですから落伍することなくついてきて下さい。

II E (火曜日)

助教授 寺田龍男

このクラスはやさしい読解テキスト(会話体)から入ります。軌道に乗り次第音声や作文に関しても練習する予定です。

II E (木曜日)

(前期) 非常勤講師 野田克己
(北海道大学助教授)

(後期) 非常勤講師 副島博彦
(北海道大学講師)

昨年度後期に使用した次のテキストを引き続き用います。

初見他編「文法読本——ドイツ語とわたしたち」(郁文堂)

ドイツ語の文章を読み、文法の復習をします。その上、簡単なドイツ語を実際に口に出して使ってみる練習をします。毎時間ペアを組んで練習しますので、欠席しないように、また遅刻しないようにしてください。最初の時間には、授業の進め方その他詳しく説明しますので必ず出席してください。

フランス語 I

I A (火曜日)

(前期) 非常勤講師 高橋百代

用書：「大学一年生のフランス語〔改訂版〕」朝比奈誼著(第三書房, ¥1,100)

(後期) 非常勤講師 梶野吉郎
(北海道大学教授)

用書：未定

I A (木曜日)

助教授 高橋純

用書：「クラルテ<<文法編>>」和田利正他著(白水社, ¥1,600)

I B (火曜日)

助教授 江口修

用書：「フランス語の広場」山崎庸一郎他編(第三書房, ¥1,400)

I B (木曜日)

助教授 高橋純

用書：「ボンジュール、パリ！ボンジュール、フランス！」佐藤房吉他著(第三書房, ¥1,200)

I C (火曜日)

助教授 江口修

用書：「モード・コミュニカティブ」A. ガルデラ・大賀正喜著(朝日出版社, ¥1,400)

I C (木曜日)

非常勤講師 ブリュノ・デュボア

L. L.: 視聴覚教材を用い簡単な会話・発音練習。テキストは《Nouveau Sans Frontière》です。言語表現は社会的行動様式と結びついたものであるから、学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少くとも一冊は読むこと。なお、クラスでは学生の活発な参加により、楽しい実用的小会話、場面設定による会話構文訓練を行う。宿題を課すので必ずやって来ること。また授業への準備を必ずやること。

フランス語 II

II A (火曜日)

(前期) 非常勤講師 高橋百代

用書：「アイトロッシュ」秋山・根岸編(白水社, ¥1,100)

(後期) 非常勤講師 梶野吉郎
(北海道大学教授)

用書：未定

II A (木曜日) 助教授 江口 修

用書: 「ギリシャ神話2」柳沢・小田切編注(第三書房, ¥1,100)

II B (火曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「ぼくのパパは変わりもの」下川茂編注(駿河台出版社, ¥1,100)

II B (木曜日) 助教授 江口 修

用書: 「続フランスとフランス人」天野恒雄編注(白水社, ¥1,100)

II C (火曜日) 助教授 高橋 純

用書: 「パリのKyoko」中山真彦(第三書房, ¥1,300)

II C (木曜日) 非常勤講師 ブリュノ・デュボワ

L. L.:教材は《Sans Frontière》。原語の問題意識の自覚と敏感な感覚を養うために、学生諸君はフランス語の機能を理解し、生きた会話による言語表現のよりよい展開に努力すること。家庭学習においてはカセットの利用などにより発音に慣れるように。宿題を課すので必ずやって来ること。授業への準備を必ずすること。

推薦辞書

- * 多田未知太郎他編「クラウン仏和辞典」(三省堂)
- * 福井芳男他編「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)
- * 鈴木信太郎他編「スタンダード仏和辞典」(大修館)
- * 井上源次郎他編「新仏和中辞典」(白水社)

中国語 I

I A (火曜日) } 講師 木之内 誠
I B (木曜日) }

I A (木曜日) 非常勤講師 大谷通順
(北海道大学助手)

中国語が今、巨大な隣国の言葉として、私達にとっての重大さ、重要さを増しつつあるのは確かなようだ。しかし、文字として漢字を使い慣れている日本人にとっても、耳から入り口から出る中国語を習い覚えることは、いわゆる横文字の言葉と比べても、よりたやすいとはいえない。一年目の授業では、使える生きた言葉をめざして、舌と耳を使ったトレーニングに労力を惜しまないことにしよう。

テキスト: 「例文中心 初級中国語」牧田・楊著(同学社)

辞書: 岩波中国語辞書(岩波書店), 簡約現代中国語辞典(光生館), 簡明中日辞典(東

方書店)などが初・中級段階用として推薦できる。

詳しくは授業開始時に説明する。

テープをL. L. 教室に備えておくので、各自十分活用してもらいたい。

I B (火曜日) 非常勤講師 野澤俊敬
(北海道大学助教授)

中国語の初級を教える。発音から始めて文法の基本を習得するよう指導するが、とくに発音は難しいので、十分な練習が必要である。受講者には真面目な学習態度を期待する。

テキスト: 例文中心『初級中国語』(牧田英二・楊立明著, 同学社)

辞書: 簡約現代中国語辞典(香坂順一編著, 光生館)が望ましい。

中国語 II

II A (火曜日) } 講師 木之内 誠
II B (木曜日) }

外国語を学ぶことの楽しみに一つは、その民族の文化の懐深くへと入っていくための、またたない切符を手にかざることにある。その意味で、中国語IIでは、これまでに学んだ基本的な文法事項を復習整理しながら、中国文化への多方面からの接近、理解を進めていくことを狙いとして、この教科書を選んだ。二年次では辞書をこまめに引いてもらいたい。

テキスト: 「標準中国語2」上野恵司著(白帝社)

なお年度の当初は、一年次で使った教科書「中国語初歩一閲読・文法編一」の残りをやる予定。

原則として、中国語Iの単位を取得していない場合は、中国語IIの受講は認められない。

II A (木曜日) 非常勤講師 大谷通順
(北海道大学助手)

テキスト: 丁秀山『愉快的北京旅游——北京への旅』(金星堂)

II B (火曜日) 非常勤講師 野澤俊敬
(北海道大学助教授)

中国語Iで学んだ基本文法を応用して実践的な読解力を養う。

テキスト: 中国の新聞を読もう(三瀧正道編著, 朝日出版社)

スペイン語 I

助教授 山田真史

スペイン語の文法、読解、会話の基本を学びます。

テキスト、辞書は未定ですが、「文法」と「読本」用をそれぞれ一冊ずつ予定しています。他の外国語で単位をとれなかった学生のこの授業への志望変更は受けつけていません。

出席を重視しますし、授業への準備が必要です。詳しいことは最初の授業で話します。

スペイン語Ⅱ

助教授 山田真史

テキストは未定ですが、「会話」、「読解」用の本を各一冊ずつ予定しており、前者はスペインで発行された外国人向けの学習テキストとなるはずですが。

詳しいことは最初の授業で話します。

スペイン語Ⅰの単位をとれなかった学生はこの授業に出席できません。

ロシア語Ⅰ

教授 松本忠司

発音、文法、訳読、作文の基礎的学習

教科書：ロシア語16課 新田実著、白水社

ほかに、学習の進度に応じ、プリント刷りのテキストを配付する予定。教科書購入のさい、短期大学部学生用の教科書を誤って購入することのないよう、特に注意すること。

辞書：現在市販のものにはそれぞれ長短があるが、次のうち一点はぜひとも用意すること。ただし、早急に購入する必要はない。初年度の前半ぐらいは辞書に頼るよりも、単語帳を自分で丹念に作るほうが、はるかに確実な学習効果を生むであろう。

八杉貞利編 岩波ロシア語辞典

木村彰一編 博友社ロシア語辞典

井桁貞敏編 コンサイス露和辞典（改訂版）三省堂

東郷正延編 研究社ロシア語辞典

ロシア語の背景世界を知るために、東郷正延編「ロシア・ソビエトハンドブック」（三省堂）をすすめる。歴史、文学、地誌、ことわざ、文法などの簡略辞典としても役立つ。

ロシア語Ⅱ

教授 松本忠司

前年度の教科書の未学習部分をまず学習し、文法知識の総括をおこなったうえで、文学作品（詩、小説、戯曲、回想記）および言語学・社会科学関係論文の講読へすすみ、これに大半の時間を当てることになるが、文法のより深い学習、作文練習を併せて行うので、専用のノートを用意すること。

テキストはプリント刷りの予定。参考までに記すと、昨年度のテキストの主要なものは、チャーホフの戯曲『三人姉妹』の抜粋、ゴーリキイの回想記『ア・ペ・チャーホフ』、「エコー」誌所載の論文『社会革命としてのペレストロイカ考』であった。

出席を重視する。この条件は、卒業年次生に対して特に厳密に適用する。

3 保健体育科目

体育講義

教授 大竹信三郎

人の「病気」は医学の問題であるが、人の「健康」は医学が関与する対象があると同時に、自然環境、公害問題、生活習慣・環境など社会生活にかかわる要因が絡んでいる。更に健康の概念を、単に身体を精神的あるいは肉体的な疾病・異常から護るという考え方からだけでなく、「健康」を人生観や人間形成と直結した問題として論じる。

医学の面では、人体の生体反応のしくみ、疾病構造の変化、なかでも成人病、心身症、免疫やアレルギーにもとづく疾患、更に喫煙による健康障害、性行為感染症、急性アルコール中毒などの事柄等も含める。

また、社会生活等の環境因子による影響たとえば、ストレスや栄養をはじめ、生活リズムの乱れ、運動不足などによる異常、精神障害等大学生活にかかわる問題につき言及する。

従って、日常生活における健康管理すなわち、疾病予防に必要な医学常識とその実際の対応に加えて、精神的、身体的かつ社会的にも健全な人間を育成する自己管理のあり方につき述べる。

なお、次のとおりクラス分けを行う。

Aクラス（前期）：8*001~8*200

Bクラス（後期）：8*201~

体育実技 I・II

教授 杉山 登
 教授 藤江 正
 助教授 田野 有一
 講師 中川 喜直
 非常勤講師 中川 平悟
 (小樽商業高等学校教諭)

I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に参加しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)のうち、いずれかを履修することになっている。

体育実技実施種目は必修種目と選択種目とからなり、必修種目として1・2年目とも体力診断テスト、トレーニング法の実践、水泳、スキー等を行う。

II 必修実技種目とその内容

必修実技種目のうち、トレーニング、水泳、スキーについては講義を行う。その内容、日時に関してはおって通知する。

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降運動

以上の7種目で、測定実施時期は、第1回目は春季、第2回目が秋季である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。ここでは体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。

(3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。指導段階の区分として都合上、4班に分け、各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施期間等については、おって掲示等により通知する。

<水泳実技内容>

区 分	実 技 種 目	テ ス ト 種 目 (泳法・距離泳)
初級グループ	・立ち方、背浮き、立ちとび込み、伏し浮き、簡易泳法、体位変換	・背浮き、伏し浮きからの立ち方…泳法 ・簡易泳法で10m以上……距離泳
中 級 A・B グ ル ー プ	・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ、バタフライ、潜行、横泳ぎ、ターン	・泳法2種選択……泳法 ・1種目で25~50m……距離泳
上級グループ		・泳法2種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

(4) スキー

室内に閉じこもりがちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を修得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け、各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、おって掲示等により通知する。

<スキー実技内容>

区 分	実 技 種 目	テ ス ト 種 目
初級グループ	* 歩行、滑走法、方向転換 * 転倒法、登行法、直滑降 * プルーク・ボーゲン * シュテム・ターン	* プルーク・ファーレン * プルーク・ボーゲン
中 級 A・B グ ル ー プ	* プルーク・ボーゲン・横すべり * 斜滑降、シュテム・ターン * パラレル・ターン	* シュテム・ターン * パラレル・ターン
上級グループ	* ウェーデルン、発展技術	* ウェーデルン

III 選択実技種目とその内容

バスケットボール、卓球、バドミントン、ソフトボール、バレーボール……この中から選択履修することになっている。

4 基礎教育科目

経済学概論 A

教授 鶴 沢 秀

(1) 受講資格

経済学概論 A は、学生番号89001から89215までの1年次生と、2年次以上の学生で選択する者に限って履修を受け付けます。

(2) 講義の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的内容について述べる予定です。

概要：1. 経済学の課題・方法および経済循環

2. 消費者選択の理論

3. 生産の理論

4. 費用の理論

5. 市場構造と均衡

6. 資源配分の最適性と政府の役割

7. マクロ経済学の視点

8. 国民所得水準の決定

9. 物価と雇用

10. 国際経済の理論

(3) 教科書

早見 弘他著『現代経済学講義』（1989年，中央経済社）。

(4) 参考文献や資料

必要に応じて授業中に述べる。また、パソコン利用の自習についても授業中で触れる予定である。

経済学概論 B

(前期) 助教授 坪 沼 秀 昌

(後期) 助教授 栗 田 啓 子

今日、地価、税制、貿易摩擦、雇用問題等の数多くの経済問題等が盛んに論じられています。本講においてはこれら様々な経済問題を理解するために必要な基礎知識と思考方法を修得することを目的として、理論と現実の関係を緊密に保ちながら経済学の基礎を学びます。

ところで通常、経済学は経済全体の大づかみな動きを分析の対象とするマクロ経済学と個々の経済主体の行動までも分析対象とするミクロ経済学に分けられます。本講では、前期においてマクロ経済学によって国民所得水準や雇用量がいかんして決まるかを説明し、後期においてはミクロ経済学によって家計や企業がいかんして行動し、その結果として市場全体で資源配分がどのようなメカニズムで決定されるか等について解説します。

テキスト：伊藤元重『入門 経済学』日本評論社，1988年。

商 学 概 論

(前期) 教授 篠 崎 恒 夫

(中期) 教授 森 田 憲

(後期) 教授 久 野 光 朗

商業学科商学コースは大別して、商学・経営学・会計学の3部門より成り立っている。この3部門は歴史的・理論的に互いに、どのような関連性を有しているのだろうか。商学概論なる授業科目は、商学コースで準備されている3部門のうち、いずれを選んで主要研究対象にするかを決定する際の予備知識を与える任務をも背負っている。商学概論の役割はそれだけではない。現代資本主義の生成・発展の過程で、商学、経営学および会計学の各部門の学問体系がどのような必然性をもって生まれてきたり、発展せしめられて今日の姿なり体系を為すようになったかを解明するのが、むしろ本来の役割であろう。

時代の要請に応じて各部門はそれぞれが主となり従となって、お互いに影響しあいながら発展してきた事実を念頭におきながら部門別に以下の内容をもって概論を行うことにする。

I 経営学部門（4月～6月末）

担当 篠崎 恒夫

1. 商の発展と資本の成立

2. 企業形態の展開

3. 株式会社とその経営

4. 管理と組織

II 商学部門（7月～10月末）

担当 森田 憲

市場における交換の考え方を中心に講義をすすめることにする。

具体的には、不確実性の存在のもとでの取引および将来時点での取引がどのような仕組みのもとで行われるのかを考えてみることにする。

主たる講義内容は次の三点である。

1. 消費者および生産者の行動

2. 不確実性が存在する場合の行動

3. 先物市場のメカニズム

(参考文献は適宜指示する)。

III 会計学部門（11月～2月末）

担当 久野 光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、教養としての会計—会計学を講述したいと思います。講義内容は、おおむね次のようになります。

I 会計情報の利用者と会計情報の分析

II 会計情報の提供者と会計情報の生産

III 会計情報の提供者と経済事象の認識

主要参考書：

高田正淳編著、『テキストブック会計学(1)会計学総論』（有斐閣，1982）

参考書：

- 青木茂男, 『会計学総論』 (中央経済社, 1978)
 染谷恭次郎, 『会計学』 (中央経済社, 1978)
 神戸大学会計学研究室編, 『会計学基礎論』 (同文館, 1985)
 久野光朗編著, 『簿記論講義』 (同文館, 1986)
 神戸大学会計学研究室編, 『第4版会計学辞典』 (同文館, 1984)
 森田・宮本編著, 『会計学辞典』 (中央経済社, 1983)

法学概論

(前期) 講師 町村泰貴
 (後期) 助教授 丸山雅夫

(講義の対象と目的)

学生諸君は「法」という言葉からどのようなことを連想するだろうか？
 警察や裁判所, あるいは国会など国の機関を連想する人もいるだろう。また憲法や刑法など, 新聞やテレビでよく取り上げられる法律を思い浮かべる人もいるだろう。こうしたイメージは「法」の一つの側面をとらえており, そのような現象も法学と呼ばれる学問分野の対象となる。しかしこのようなイメージとは裏腹に, 私達のごく身近な日常生活も絶えず「法」とのかかわりを持って動いている。例えば諸君がアパートや下宿に入居する場合, あるいはもっと一般的にお店から何か物を買う場合, 車を運転する場合は免許の取得から運転中のルールまで, 常にその背後に「法」が存在する。このような日常的な「法」とのかかわりは, うまくいっているときは意識しないでも過ぎていくが, 何かトラブルが生じたとき, 例えば大家さんが明け渡しを求めてきた場合, 交通事故に巻き込まれた場合には, 背後に隠れていた「法」が表に出てくる。

法学はこのような様々な現象を支えている「法」を対象とする学問の総称で, その基礎知識を身につけることも本講の目的の一つであるが, これとともに法的な物の見方・考え方を習得することも重要な目的である。

(講義の順序)

前期は町村が担当し, 主に民事法分野(民法, 商法, 民事訴訟法など)を取り扱う。後期は丸山が担当し, 主に公法・刑事法分野(憲法, 行政法, 刑法, 刑事訴訟法など)を取り扱う。

(使用する文献)

まず「六法」と呼ばれる法令集が必携である。この六法は出版社やサイズが様々だが, どの種類のものでも良い。ただし判例付き六法は原則として試験に持ち込めないので注意すること。

参考書は講義中に随時指示するが, 差し当たり前期では, 山田正男=福永有利=小田浩三『法のことわざと民法』(北大図書刊行会・1,400円)を基本テキストとして使用する。

管理科学概論

(前期) 教授 樋口 透
 (後期) 教授 沼田 久

この講義の目的の1つは, 学生諸君に管理科学についての正しいイメージを形成してもらうことである。

(前期)

1. OR(Operations Research)の歴史
2. ORの考え方
3. コンピュータとOR
4. 意思決定過程
5. システム・シミュレーション
6. 日程計画

レポートを5編ほど提出してもらう。レポートは成績評価のデータに最大30%程度使用いたします。

参考文献: 沼田 久『マネジメント・サイエンス』(富士書院)

(後期)

スケジューリング問題, 経済性分析, 線形計画法, ゲームの理論, 輸送問題, 巡回セールスマン問題, 動的計画法, 最適停止問題, グラフ理論などの講義を通じて, 管理科学の考え方を身につけてもらう。

教科書: 沼田 久『マネジメント・サイエンス』(富士書院)

数 学

教授 白 川 寛
 助教授 兼 岩 龍 二

数学の授業は下記のクラス編成により行われる。1年生のクラス所属は備考欄を見ること。
 2年生以上のクラス所属は自由である。

	クラス	前 期	後 期	コース	備 考
2 講 目	S 1	兼 岩	白 川	微 積 コ ー ス	学生番号89001~89200で2講目受講を希望するもの。
	S 2	白 川	兼 岩		学生番号89201~894**で2講目受講を希望するもの。
4 講 目	S 3	兼 岩	白 川		4講目受講を希望するもの。
	S R	白 川	兼 岩	微積・論理コース	微積・論理コースの受講を希望するもの。

I コース

(1) 微積コース (S1, S2, S3)

一変数及び多変数の微分積分を行う。

テキスト：解析入門 渡部隆一著 培風館 1,300円

(2) 微積論理コース (SR)

微積コースと同様の内容を手短かに前期で済ませ、後期に記号論理・組合せ論等をあつかう。後期は定期試験なしでレポートを課す。

テキスト：前期は微積コースと同じテキスト使用、後期は未定。

II テキストの紹介

解析入門(このテキストは高校の「数学I」を予備知識として理解できるように書かれている。) 目次

1. 数列
2. 初等関数
3. 微分法
4. 積分法
5. 曲線と曲面
6. 多変数の関数
7. 複素数とその関数

5 専門教育科目

統 計 学

教授 久 次 智 雄

データの要約整理の手法としての「記述統計」と、標本についてのデータから母集団について推論する手法としての「推測統計」とについて講義する。

講義内容：1. 記述統計(度数分布, 関係の分析, 時系列分析)

2. 推測統計(確率分布, 推定, 検定, 予測と決定)

参考書：(1) 森田優三『新統計概論』日本評論社。

(2) 森田優三・久次智雄『演習統計概論』日本評論社。

その他 参考書(1)は、講義の際に持参すること。

数 理 統 計 学

教授 久 次 智 雄

2年次の「統計学」で扱った各種の手法の基礎となる数理を明らかにし、さらにその他の手法・考え方について講義する。

講義内容 確率変数(補論), 標本統計量の分布, 線形代数(補論), 回帰分析・分散分析の基礎, 推定・検定論の基礎, 多変量解析, ベイズの推論など。

参考書：岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社。

その他

(1) プリントを用いる予定。

(2) 1年次の「数学」(微積分), 2年次の「統計学」および「応用数学(代数)」は履修済みであるとして講義を進める。

(3) 今年度は、計算センターでの実習を数回行う予定。

経 済 原 論 I

助教授 山 本 賢 司

この科目では、マクロ経済学を中級レベルで解説します。そこでは、日頃私達が耳にするGNP, 物価水準, 利子率, 為替レート等の水準がどのように決定され、これらの経済変数が相互にどのような関連をもつか、について考察します。

概要：1. マクロ経済学の課題

2. 国民所得勘定と産出量の決定

3. 生産と雇用

4. 消費と貯蓄

5. 投資と資本

6. 財政収支

7. 実物と金融

8. 貨幣の需給

9. 失業とインフレーション

10. IS/LM曲線とAS/AD曲線
11. 安定化政策
12. 輸出と輸入
13. 資本移動と為替レート

教科書： 佐藤和夫著「マクロ経済学専科」（東京：日本評論社，1989）

その他の文献： 代表的な教科書として、次の2冊を挙げておきます。

中谷 巖著「入門マクロ経済学」（第2版）（東京：日本評論社，1987）
Dornbusch, R., and S. Fischer; *Macroeconomics*, 4th ed. (New York: McGraw-Hill, 1987)

試験： 2回の試験を予定しています。

成績評価の基準： 履修者数が教室の収容人員数を越える場合には、2回の試験結果の単純平均によって評価を行う。越えない場合には、数回のクイズを行い、評価に加算する。

経済原論Ⅱ

助教授 山本賢司

この科目では、3年次以降の経済学諸科目に対する基礎を与えることを目的として、財・サービスの価格、そしてその価格の働きによる資源配分を分析するミクロ経済学について解説します。

概要： 1. 単純な部分均衡分析

2. 消費者行動の理論

3. 企業行動の理論

4. 生産物市場における価格の決定

5. 生産要素市場における価格の決定

6. 不確実性のもとでの経済行動

7. 資産価格の決定

8. 一般均衡分析とその応用

9. 市場均衡と経済的厚生

10. 市場の失敗

11. 競争的均衡分析の限界——不完全競争の理論

12. 情報の経済分析——いくつかのトピックス

教科書： 西村和雄著「ミクロ経済学入門」（東京：岩波書店，1986）

参考文献： 講義内容に近い他の文献として、次の2冊を挙げておきます。

Nicholson, Walter; *Microeconomic Theory: Basic Principles and Extensions*. 3rd ed. (Chicago: The Dryden Press, 1985)

Quirk, James P.; *Intermediate Microeconomics*, 3rd ed. (Chicago: Science Research Associates, Inc., 1987)

試験： 3回の試験を予定しています。

クイズ： 随時、行います。

成績評価の基準： 概ね、試験とクイズの結果にそれぞれ60%、40%のウェイトを置きます。

経済学特別講義（夏季集中）

非常勤講師 後藤 晃
（成蹊大学教授）

別途掲示により通知。

経済学史

助教授 栗田啓子

経済学の歴史を概観することは、経済学とは何かを考えるための最良の手段である。それは、現代理論の先祖探しという知的パズルであることを超えて、広汎な社会事象のなかから分析対象を選択し、分析方法を設定しながら経済学というひとつの〈科学〉が形成されてきたことを確認する作業でもある。しかし、この〈科学〉は、統一的な理論の集合体ではない。ことなつた歴史的な脈、問題意識、そして一表明された、あるいは沈黙のうちのイデオロギーに規定され、さまざまな理論群が併存している。私たちにとって自明に思われる〈経済〉、〈経済学〉という概念自体が、経済学史というベールを通して見ると、奇妙に不確なものに見えてくる。だからこそ、経済学史は、これまで学んできた経済学を相対的な視点からとらえ返し、確かに自分のものにするための資料を提供し、手段をさし示すことができるのである。

テキスト・参考文献は、追って通知する。

経済原論Ⅲ

非常勤講師 花田功一
（小樽商科大学短期大学部助教授）

日本は今、財政危機と貿易摩擦（円高）のために文字どおり綱渡りの経済運営を強いられています。そして、これら二つの危機要因が私達の生活に様々な困難を生み出しています（景気停滞、福祉切り捨て、増税、失業、賃金切り下げ等々）。ところで、これら財政危機と貿易摩擦（円高）が生ずる根本には資本主義の本質から生ずる全般的過剰生産恐慌があります。資本主義に不可避なこの全般的過剰生産恐慌を資本主義経済をそのままにして人為的に無理になくそうとすることから財政危機や貿易摩擦（円高）が発生するのです。だから、現在の日本経済を根底から理解するためにはこの全般的過剰生産恐慌が資本主義のもとではなぜ発生するのか、なぜそれは資本主義にとって不可避的なのかを理解しなければなりません。そして、マルクス『資本論』の最終目標はまさにこの点の解明にこそあったのです。

以上の様な問題意識と『資本論』理解にたつて、全般的過剰生産恐慌がいかに発生するのかの解明を軸としてマルクス『資本論』の基本論理を説明します。

参考文献

宇佐美・宇高・島編『マルクス経済学講座』1, 有斐閣。
宇佐美・宇高・島・大橋編『新マルクス経済講座』1, 有斐閣。
宇佐美・宇高・島編『マルクス経済学体系』I, 有斐閣。
見田・宇佐美・横山監修『マルクス主義経済学講座』上下, 新日本出版社。

計量経済学

教授 遠藤 薫

消費者行動, マクロ経済等についての計量経済学的分析例をとりあげて講義します。またパラメーターの推定に関連して, 多重共線性, 識別の問題, パラメーターについての制約等を取りあげます。

参考書

佐和隆光『数量経済分析の基礎』筑摩書房
アダムズ『計量ビジネス予測入門』東洋経済新報社
その他, 講義の中で示します。

経済史概論

教授 井上 巽

本年度の講義はイギリス資本主義達史をテーマとします。このなかで, 適宜, フランス・ドイツ・アメリカなどの史実にも関説しながら, 西洋経済史の基礎理論を論述する予定です。講義内容の章別編成は以下のとおりですが, 若干の変更があるかも知れません。

- I. 序論——社会構成体の段階的移行
- II. イギリス資本主義成立史論
- III. イギリス市民革命史論
- IV. イギリス重商主義史論
- V. イギリス産業革命史論
- VI. イギリス帝国主義史論

テキストは使用せず, 講義ノートを中心に論述します。したがって, 講義に出席することが肝要です。参考文献は必要に応じてそのつど指示しますが, さしあたって, 松田智雄編『西洋経済史』(青林書院新社)および大塚久雄編著『西洋経済史』(筑摩書房)をあげておきます。

日本経済史

教授 長谷川 伸 三

この授業は後期2コマの利点を生かして, 講義と配布資料の学生による分析を組み合わせを進めたい。資料の分析結果は, 口頭やレポートの形で報告してもらおう。

対象とする時期は, 1859年の開国より約1世紀間とし, この間の日本経済の変化を, ①国際経済との関連, ②経済政策等の政治過程との関連, ③労働者・農民等の社会各層との関連, ④現代日本経済との歴史的関連を重視して追究したい。

使用テキストその他については, 9月に掲示する。評価は資料分析の報告と学年末テスト

を総合して行う。

参考文献は開講時にリストを配布する予定であるが, とりあえず次の4点をあげておく。
後藤 靖他著『日本資本主義発達史』有斐閣
石井寛治著『日本経済史』東京大学出版会
長岡新吉他著『近代日本経済史』日本経済評論社
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』第2版, 東京大学出版会

経済政策

非常勤講師 小野 浩
(北海道大学教授)

経済政策はミクロ経済学や, マクロ経済学の基礎知識を前提とした応用経済学の一分野として, 重要な領域である。本コースの履修者が経済学の初歩的な知識を有していることが望ましい。

経済政策の講義として, マクロ経済学の知識の上に, 財政・金融政策の効果を分析するものと, ミクロ経済学の知識の上に, 主として市場メカニズムの有用性や限界に焦点をあてて分析する方法とがあるが, この講義は後者に属する。講義の主要なトピックスを列挙すると以下のようであるが, 必ずしもこの順序で講義するとは限らない。

- ・競争均衡とパレート最適
 - ・厚生経済学の基本定理
 - ・市場の失敗
 - ・公的年金
 - ・外部経済・不経済
 - ・コースの定理
 - ・公共財
 - ・リンダール均衡
 - ・フリーライダー問題
 - ・ピークロード料金
 - ・独占
 - ・2部料金制
 - ・費用—便益分析
- 参考文献として, 最近出版された『公共経済』奥野信宏(東洋経済新報社)をあげておく。

農業経済学

非常勤講師 崎浦 誠 治
(北海道大学名誉教授・酪農総合研究所長)

農業はミクロ経済理論の適用にもっともふさわしい応用経済の1分野であるが, 他方保護政策によって強固に支えられている分野でもある。とくに過去1年農業・農民は保護政策をめぐって批判の十字砲火を浴びた。本講義では先進諸国はなぜ手厚い保護政策を採用するのか, 農業保護の経済学とはいかなるものか, いかにして農業の自立は可能かなど実際上でも学問上でも興味深い現代日本農業経済論に迫ってみたい。そのためつぎの著書をテキストとして使用する。

テキスト名: 速水佑次郎著『農業経済論』(岩波書店モダンエコノミックス17)ただし農業構造論, 農業協同組合論, 家族農業論の系譜などその都度補強しながら講義を進めるつもりである。

社会政策(夏・冬季集中)

非常勤講師 吉武 清 彦
(釧路公立大学経済学部長)

第I篇 社会政策史

第II篇 社会政策と労働経済学

第Ⅲ篇 社会政策各論

文献

- 大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣
隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）
白井泰四郎『企業別組合』（中央公論社）
今井登志喜『英国社会史』（上・下）東太出版会
G, D, H, コール『イギリス労働運動史』（I・II・III）岩波現代叢書

財政学

教授 早見 弘

財政学は政府の統治行為の貨幣収支に伴う経済効果の分析と、財政政策の規範的分析を主要内容とする。最近の20年間を顧みると、財政規模の拡大、所得再分配政策の（福祉政策）の重視がみられる一方、国債の累積、税制改革の必要性が日本のみならず先進諸国に共通する現象である。本講は以上の現代的課題を統計的事実として検証するとともに、その理論的説明ならびに政策の方向を検討しようと思う。随時プリントを配布するし、また、出席をとり

1. 政府の経済的役割と財政規模の拡大
2. 市場の失敗と公共財の供給ならびに所得分配の修正
3. 集会的決定と政府の失敗
4. 個人所得課税と労働供給および貯蓄
5. 法人（企業）課税と投資・企業財務および産出高の調整
6. 租税の転嫁と帰着分析
7. 消費課税の諸方式
8. 資産課税：相続税と固定資産税
9. 租税政策の判定基準：公平・効率および安定的成長

参考文献：拙著『財政学』（同文館，1980年）

石 弘光著『財政理論』（有斐閣，1984年）

国際経済論

助教授 船津 秀樹

本講では、国際経済学の理論と応用について解説し、国際経済をめぐる諸問題について理解を深めることを目的とします。

- I. 国際経済学の方法
- II. 国際貿易理論
- III. 生産要素の国際間移動
- IV. 国際貿易と不完全雇用
- V. 国際収支の理論
- VI. 国際貿易と不確実性
- VII. 経済統合と南北問題

参考書：Wilfred Ethier, *Modern International Economics 2nd Ed.* (W. W. Norton & Company, Inc. 1988)

貿易政策

教授 佐竹 正夫

本年度は前期貿易政策、後期国際経済学の組合せで講義を行います。貿易政策では、現在わが国が当面している国際経済の（特に経済摩擦に関する）諸問題を解説し検討します。現実の問題を正しくそして深く理解するためには、経済理論の知識は必要不可欠です。もしそれがなければ、理解は表面的で浅薄になり、問題に対する解決方法は場当りの公平さを欠くものとなります。したがって、講義では初めに国際経済学の基本的な考え方を（最小限）説明します。（詳しい説明は国際経済論及び国際金融論で行われます。）

次に、戦後の国際経済体制と日本経済の国際的側面並びに通商政策を解説します。（オイル・ショック以降の日本経済の動向については経済学特別講義で詳しい説明がなされます。是非受講して聴いてください。）その後現在の諸問題を取り上げます。他学科では国際経済法、貿易論が重要な関連科目です。これらを合わせ受講することによって、国際経済問題に対する理解が深められると思います。

講義の大体の順序は、次の通りです。

1. 国際分業の理論—比較優位説と貿易利益
2. 国際通貨制度と国際収支の調整
3. 貿易政策の効果
4. 戦後の国際経済体制とわが国の国際化—通商・投資政策
5. 貿易摩擦と保護主義の台頭
6. 日本、発展途上国の輸出拡大と先進国の保護貿易政策—幼稚産業保護と産業調整
7. 市場開放と農業自由化問題
8. 対外投資と労働の国際移動
9. 経済統合とGATT体制

参考文献：資料については講義の中で指示します。テキストは用いず、プリントを配布します。

金融経済論

教授 今 喜典

現代の金融経済を理解するために必要な概念と分析用具をできるだけ体系的に講義する。応用経済学としての性格から、全体を通じてミクロ経済学的考えが基礎となり、また後半ではマクロ経済学的見方も用いられる。ただし必要な理論はそのつど説明する。

現在のわが国は、金融の自由化・国際化などにみられるように大きな構造変化の時期にある。講義では、わが国の金融制度と構造の検討もおこなう。特に本年度は、「銀行」を重点的にとりあげる予定である。

講義内容

1. 貨幣経済の特質と金融の機能

2. わが国の金融構造
3. 家計と企業の金融行動
4. 銀行行動——金融仲介と貨幣供給
5. 金融市場の一般均衡分析
6. 金融部門と実物部門

テキストは使用しないが、次の参考文献が有用である。

今喜典『銀行行動の経済分析』、東洋経済新報社、1987。

岩田規久男・堀内昭義『金融』（スタンダード経済学シリーズ）東洋経済新報社、1983。

金融政策

助教授 坪 沼 秀 昌

本講においては主としてマクロ的な分析によって金融政策の有効性について考察する。前半では海外との取引を無視した閉鎖体制において貨幣供給と所得、物価及びインフレーションの関係を分析し、後半では国際収支の変動を考慮に入れ、開放体制化において固定為替相場制及び変動為替相場制のもとでの金融政策の効果について考える。

参考文献

中谷巖『入門マクロ経済学（第2版）』日本評論社、1987年

R. Dornbusch, *Open Economy Macroeconomics*, Basic Book, New York, 1980

（大山・堀内・米沢訳『国際マクロ経済学』文眞堂、1984年）

国際金融論

助教授 松 井 均

第I部 総説

1. 国内決済及び国際決済の仕組み
2. 中央銀行の外国為替市場介入
3. 国際収支と対外債権・債務

第II部 市場経済的側面

4. 貿易金融
5. 先物為替取引
6. ユーロ預金市場
7. ユーロ・ボンドと金融スワップ取引

第III部 通貨外交的側面

8. IMFの融資メカニズム
9. SDR問題
10. 欧州通貨制度の運営メカニズム

参考文献

『図説 国際金融』大蔵省国際金融局、財経詳報社、1988年。

その他の参考文献は講義中にその都度示す。

流通組織論

非常勤講師 片 桐 誠 士

（小樽商科大学短期大学部教授）

商品流通の歴史的な流れをあとづけたうえで、資本制商品流通の特質を明らかにし、とりわけ現代の商品流通組織に重点をおいて講述する。

主要な講義項目としては以下のことを予定している。

1. 交換ないし商品流通の展開
2. 自由競争段階の資本制商品流通
 - (1) 商業資本の自立化
 - (2) 商業の分化
 - (3) 商業資本の無機能化
3. 現代の流通組織
 - (1) 商業資本の量的変化
 - (2) 商業資本の排除・系列化
 - (3) 商業資本の質的变化
 - (4) 現代流通組織

テキスト通りには講述しないが、一応、基準となる文献として、森下二次也著「現代商業経済論」（有斐閣）を使用する。なお参考文献は追って適宜指示する。

マーケティング

助教授 高宮城 朝 則

本講義では、マーケティング論の中心的領域であるマーケティング管理に焦点をあて、マーケティングの基礎概念、その意思決定の特質ならびに環境との相互関係について、具体的事例をまじえて講述する。

講義は以下の順序で行う予定である。

1. マーケティングの基礎概念
2. マーケティング管理の枠組
3. マーケティング戦略と戦略計画
4. 消費者行動
5. マーケティング・ミックス戦略（製品、価格、販売促進、流通）
6. マーケティング組織
7. マーケティング情報とマーケティング・リサーチ
8. 日本企業のマーケティング行動

教科書および参考文献については追って指示するが、以下の文献を教科書として使用する予定である。

嶋口充輝・石井淳蔵『現代マーケティング』、有斐閣、1987年。

久保村隆祐・阿部周造『新版マーケティング管理』、千倉書房、1987年。

なお、不定期に小テスト、クイズを行い、これを出席の代わりとするので注意すること。

国際マーケティング

講師 穴 沢 眞 眞

基礎理論の修得の後に、東南アジア諸国の工業化の過程と日系多国籍企業の行動を中心に国際経営の実態を多目的に考察する。講義内容は以下を予定している。

1. 国際経営理論概説
2. 企業の国際経営戦略(含マーケティング戦略)
3. 日系多国籍企業の歴史的展開
4. 企業の環境適応
5. 環境としてのホスト国の経済発展政策
6. ケース・スタディ(マレーシアの事例を中心とした)

参考文献については講義において適宜紹介するものとする。

貿 易 論

教授 森 田 憲 憲

東西貿易について講義をする。

標準的な貿易理論を使ってどこまで東西貿易の動きや現象が理解できるのかを考えてみる事が目的である。

したがってこの講義では、

- (1) 標準的な貿易理論
- (2) 東西貿易の(国際政治の側面を含む)実態
- (3) 東西貿易の諸問題に関する理論的解釈

の3つの主題が中心となる。

参考文献

- ・小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』岩波書店
- ・Joan Edelman Spero, *The Politics of International Economic Relations*, 3rd ed. George Allen & Mnwin.
- ・Franklyn Holzman, *International Trade under Communism*, Basic Books.
- ・小川和男 『東西経済関係』 時事通信社

商 業 英 語

非常勤講師 相 川 謙 二 郎

海外商取引用英語活用の基礎的段階を高めるとともに、貿易実務の専門的スキル習得を目標とする。すなわち実業界での英語活用の特徴を研究・学習対象とし、取引関係の樹立、売買契約成立、売買契約の履行と代金決済、苦情・求償・解決、さらに電気通信利用の上記各プロセスの表現活用を含む case study 中心に講述し学習をすすめる。

Contents:

- 1) Seeking overseas connections—Market survey & Credit inquiry
- 2) Proposing Business & Offers
- 3) Conclusion of Business—Order & Contract

- 4) Execution of Contract—Shipment, Arrangement of Carrier, Marine Insurance, Loading & Unloading, Customs clearance procedure, Shipping Documents
- 5) Settlement of Account—With or without Letter of Credit & Bill of Exchange
- 6) Claims, Compensation & Settlement
- 7) English in Telecommunications

テキストとして、下記を使用し必要資料はプリントにて補充する。

*テキスト：羽田三郎・島 弘祐 共著 「貿易の英語」

“English for International Trade”

(森北出版株式会社)

保 險 論

講師 中 浜 隆 隆

前半で保険の基礎理論を講述し、後半では保険の歴史的展開について考察する。

1. 保険の基礎理論

- (1) 保険の種類と分類
- (2) 保険の構造
- (3) 保険の経営

2. 保険の歴史

- (1) 損害保険
- (2) 生命保険・年金
- (3) 社会保険

3. 保険会社の保険引受・金融業務の展開

教科書は使用しない予定である。参考文献は講義の中で適宜指示する。

証 券 市 場 論

助教授 青 山 和 司

現代の証券市場は旺盛な投機活動の中心舞台になっている感がある。世上を騒がせているリクルート・コスモス未公開株譲渡事件は、未公開株が上場公開された場合、その株式は必ず値上がりするという現在の株式市場の状況を前提にしている。ある意味でそれは、投機化した株式市場を象徴する事件といえるかもしれない。

他方、証券市場は企業や政府等の資金調達において、重要な役割を演じている。投機的機能よりも、むしろこうした金融的機能こそ資本主義経済における証券市場の存在意義は求められる。そこで本講義では、証券制度や証券市場の経済的機能の解説から始めて、証券市場の投機化に代表される現在の証券市場が抱えている問題の解説へと、次の順序で講義を行う予定である。

- I. 証券制度
- II. 信用制度

Ⅲ. 株式会社制度と証券

Ⅳ. 証券流通と証券取引所

Ⅴ. 証券の価格形成

Ⅵ. 証券市場の投機化

[参考文献]

中村孝俊編『証券市場統本』東洋経済新報社。

その他の文献については、必要に応じて紹介します。

証券金融論

助教授 井村進哉

証券金融それ自体は、証券市場における有価証券の取引、流通に必要な資金の貸借活動を意味する。またその典型的な市場は、証券業者、金融業者間の資金調達市場であるブローカーズ・ローン市場、あるいはインター・バンク市場を指すことになる。しかし本講義では、このように証券金融を狭く捉えるのではなく、広く金融市場と証券市場にまたがる現実的な問題を取り上げて現状を解説するとともに、その理論的フレーム・ワークを述べることにする。

そこで本年度は、昨年度に引続き、現在の金融制度改革問題の焦点のひとつである「金融の証券化」現象を取り上げ、主としてアメリカと日本における金融の証券化の背景、その金融再編に及ぼす影響、および金融機関経営に及ぼす影響を論ずることにしたい。

とは言え、金融の証券化現象を理解するためには、金融とは何か、金融の諸形態の基本的性格を理解することが必要であり、マルクスの信用形態論を前提として解説することになる。

したがって本年度の講義は、以下の順序となる。

第1章 証券金融の基礎理論

第2章 金融の証券化と金融機構の転換

第3章 金融の証券化と金融機関経営

[参考文献]

竹村一・玉野井昌夫編『金融経済論〔新版〕』有斐閣双書

館龍一郎監修『国際金融市場TOKYO』有斐閣

日本銀行金融研究所『〈新版〉わが国の金融制度』日本銀行金融研究所

経営学原理

教授 篠崎恒夫

上手く企業を運営することは経営であって、経営学そのものではない。我われはこうした術=ハウトゥーを含んだ日常の経営事象を経営学の対象として据えて、それを理論的客観的に解明しようとする。この結果把握される理論体系が経営学である。いかに経営するか、管理するかは、状況に応じ、人に応じて種々様々であり、諸君らが自ら実践書や経済新聞などを通じて学ぶべきことである。我々がなすべきことは、まず、対象とする経営がいかに歴史的に形成され、今日いかなる経営学を要求し、そこでは何が中心問題となっているかを客観的に、批判的に検討することである。

1. 経営学の認識課題

2. 経営学の生成と発展

3. 経営管理の展開

4. 経営者論

5. 人間関係論

6. 経営組織論

7. 今日の経営問題

参考書——講義のなかで紹介する。

関連科目——以下の諸科目を既に履修しているか、又は同時履修することが望ましい。

心理学、哲学、歴史学、社会学、社会思想史、商学概論、経済原論Ⅲ、経済史概論、経営管理論、流通組織論

経営学説史

非常勤講師 高橋正泰

(小樽商科大学短期大学部助教授)

アメリカで特に発展した経営学の展開に焦点をあてる。今世紀初頭の科学的管理法から人間関係論、行動科学、システムズ、アプローチそしてコンティンジェンシー・アプローチにいたるまでの系譜を講義する予定である。

テキスト：権泰吉著『アメリカ経営学の展開』（白桃書房 1984年）

参考文献：車戸實編『新版 経営原理の思想家たち』（早稲田大学出版部 1987年）

企業形態論

助教授 小田福男

各企業形態の「所有（出資）—支配—経営」の構造を解明する。

講義内容

序. 企業形態論の概観

1. 個人企業、合名会社、合資会社

2. 株式会社

3. 株式会社の支配構造に関する最近の論争

4. 社会主義企業

基本参考文献：大島国雄『企業形態論』同文館、1976年。

拙著『ソビエト独立採算制理論の展開』千倉書房、1982年。

これ以外の文献はその都度指示する。

経営管理論

助教授 鶴野好文

本コースでは、planning, organizing, leading, controlling の管理過程全般が論じられます。トピックスとして、organizational planning, organizational design, organization-environment interface, leadership, group dynamics, organization development が取り扱われます。

テキスト：学生番号 201 以降の巻は経営学系に属する。

John R. Schermerhorn, Jr. *Management for Productivity* (Second Edition), John Wiley & Sons Inc. : New York

労務管理論

助教授 東條 由紀彦

2年間のトライアルアンドエラーで、「教える」ことも少しずつわかってきました。今年からは以下の項目に従ってやります。

I. 労務管理

- (1) 賃金管理
- (2) 雇用管理
- (3) 工程管理
- (4) その他

II. 労使関係

- (1) 労働組合
- (2) 団体交渉
- (3) 労働争議
- (4) その他

III. 労働と市民社会

- (1) 「労働」と近代市民社会
- (2) 「労働力」と現代市民社会
- (3) 働くことの未来
- (4) その他

比較経営学

講師 李 濟 民

日・米・韓の経営比較を通じて日本の経営の本質を把握し、国際化が一層進展する中でこれからの日本企業の経営課題を戦略的に分析する。

1. 日本的経営論の系譜
2. 企業経営の日米比較—戦略と構造
3. 日本的経営の海外移植論
4. 発展途上国の企業経営—現代韓国の企業経営
5. 日本的経営の課題

参考文献：大島国雄『国際比較経営の新展開』森山書店，1987。

加護野忠男・野中郁次郎・榊原清則・奥村昭博『日米企業の経営比較』日本経済新聞社，1983。

Toyohiro Kono, *Strategy and Structure of Japanese Enterprises*. Macmillan, 1984.

その他の文献についてはその都度紹介する。

経営史

助教授 高田 聡

現代の企業経営のありかたを歴史的視角から体系的・構造的に把握することが本講義の目的です。

講義概要

- I 企業システムの成立
- II ビッグ・ビジネスの成立
- III ビッグ・ビジネスの発展

Iでは産業革命期英国，IIでは20世紀前半の米国，IIIでは戦後日米を中心に説明を行います。本年はIIに最も時間をさく予定です。II・IIIの事例研究では自動車工業に力点をおきます。

なお、特定のテキストは用いませんが、参考文献は講義初回に主要なものを紹介し、進度にしたがっても適宜指示します。

簿記学 A

助教授 松本 康一郎

○テーマ

複式簿記の原理を理解し、併せて、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的として進めます。

○範囲・内容

1. 複社簿記機構の基本原則
2. 企業複式簿記の記帳手続
3. 帳簿組織の基本類型

○テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』同文館

久野光朗編著『簿記論演習』同文館

○参考書

沼田嘉穂『完全簿記教程（I，II，III）』中央経済社

安平昭二『簿記要論 改定版』同文館

安平昭二『簿記の理論と実際』第三出版

○その他

1. 本講義は、学生番号 8X001～8X200の2年次生以上を対象とする。
2. 本講義の履修上の注意については、最初の授業で詳しく述べますので、必ず出席すること。

簿記学 B

助教授 山本 真樹夫

(1) クラス編成

各学年とも学生番号 201以降の者は簿記学Bに属する。

(2) 講義内容

簿記とは単なる記帳技術であるとか、コンピュータの利用によって無用な学問になりつつある、というような誤解があるかもしれない。しかし、簿記は現代企業の複雑な営業活動、投資活動、そして財務活動に関する情報を適切に組織化し、経営管理に役立ち、意思決定に有用な情報に加工するという、最も基本的な企業情報システムである。システムの思考あるいは情動的思考の基本的姿は簿記に見いだされると言っても過言ではない。さらに言えば、簿記は国際ビジネス言語でもある。

かかる簿記を学ぶためには、その基本原理を十分に理解していなくてはならないが、同時に、基本原理にしたがった技術の修得も要請される。たんに教科書を読み、講義を聞くばかりではなく、自ら帳簿にむかい、電卓を打ち、帳簿に記入するという努力も要請される。

受講者は簿記・会計が個人にとって、企業にとって、さらに社会にとっていかなる役割を果たしているのかについて、問題意識を持って受講してほしい。

(3) テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）。なお左記テキストに準拠した演習書、久野光朗編著『簿記論演習』（同文館）を用意することが望ましい。

簿記演習

助教授 山本真樹夫

(1) 講義内容

従来、簿記演習では会計理論と簿記との関係を重視し、損益計算論の観点から、特に棚卸資産会計、固定資産会計の分野を採り上げて講義してきた。本年度の簿記演習では従来の講義方針を変更し、簿記学の講義では十分触れることのできなかつた分野を採り上げ、簿記の記帳構造的な分野を講義する予定である。講義計画は次のとおりである。

1. 帳簿組織論
2. 商品売買取引（特に特殊売買取引）
3. 株式会社簿記論
4. 本支店簿記論

(2) テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）および久野光朗編著『簿記論演習』（同文館）

(3) その他

講義内容から解るとおり、本講義はいわゆる中級・上級簿記論の内容に相当する。したがって受講者は簿記学を履修済みであることが条件となる。

会計学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

- § 1 総論
- § 2 測定論

収益、費用、資産、負債、資本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト：太田・飯野、『会計学』（千倉書房、1983）

参考書—現在入手可能な標準的参考書：

黒沢 清、『近代会計学』（春秋社）

山下勝治、『会計学一般理論』（千倉書房）

飯野利夫、『財務会計論』（同文館）

武田隆二、『会計学一般教程』（中央経済社）

青柳文司、『会計学の原理』（中央経済社）

黒沢 清（主編）、『体系近代会計学』（中央経済社）

神戸大学会計学研究室編、『第4版会計学辞典』（同文館）

森田・宮本編著、『会計学辞典』（中央経済社）

監査論

非常勤講師 中川健蔵
（北星学園大学教授）

本講では、監査の基本的知識について学習するとともに、その対象となる財務諸表の見方、考え方を事前に復習する。（有価証券報告書）

テキストは、会計監査の基礎知識、高田正淳編著、中央経済社、（会計学基礎講座6）を用いるが、その他の参考文献は最初の講義で紹介する。

講義内容の項目は、次のようになっている。（テキスト）

第1章 総説

第2章 利害関係者保護と監査目的

第3章 監査の実施と報告

第4章 各国の監査制度

第5章 監査基準・準則の構成と内容

第6章 一般基準

第7章 実施基準

第8章 個別財務諸表の監査手続

第9章 連結財務諸表の監査手続

第10章 報告基準・準則

第11章 中間財務諸表監査基準

第12章 新しい会計情報と監査可能性

原価計算論

助教授 福島吉春

1. テキスト

溝口一雄『最新原価計算講義』（中央経済社、1979）。同書は資格試験受験者の自習書

として版を重ねてきた同一著者の著書『例解原価計算』の教科書版であり、簡明な叙述に特徴がある。

2. 講義内容

テキストの目次はつぎのとおりである。

- (1) 総説(原価計算の基礎概念)
- (2) 実際原価計算
- (3) 標準原価計算
- (4) 直接原価計算

本年度は(3)まで講義する予定である。授業内容がテキストと同一ではないことは言うまでもない。また授業では計算技法だけでなく、その基礎となる管理思考や歴史的背景も理解してもらう。さらに授業では簿記の知識があるものとして講義するので、簿記学を履修済みであることが望ましい。

3. 参考文献

原価研究会編『原価計算テキスト』『ステップ式・原価計算演習』(いずれも同文館), 岡本清『原価計算(三訂版)』(国元書房), 津曲直躬『原価計算講義』(中央経済社)。なお最初の授業で講義内容と参考文献等についての解説をおこなう。テキストと『教授要目』を持参されたい。

経営分析論

教授 中 善 宏

財務諸表分析を講義する。簿記学、会計学および原価計算論では、主として会計情報の提供者としての立場から、必要な知識を学習する。これに対して、財務諸表分析では、情報の利用者の立場から、提供される財務諸表を利用する方法に注目する。企業会計制度の産出物である損益計算書や貸借対照表などは、われわれが、ある特定の企業あるいは業種の経済活動に関心を持って何らかの分析を行おうとする際の、重要な情報源の一つである。さらに企業内部においても、経営管理上の意思決定に利用される。

本年度の講義は、財務諸表分析の基本的な方法である、財務比率や趨勢表を用いた財務安定性あるいは収益性分析法を取り上げ、それらが企業間比較や同一企業の時系列比較にどの様に適用されるかを解説する。

ついで、最近における経営分析の新たな展開を講義に反映させる試みとして、代表的な多変量解析法である主成分分析を取り上げ、これを財務比率分析に適用してみる。講義のこの段階では、本学情報処理センターで、コンピュータを利用した実習を行う。コンピュータ上で、現在世界的に最も普及している統計処理パッケージであるSAS(Statistical Analysis System)を走らせて、情報化時代の経営分析の一端を体験してもらうことにする。コンピュータの操作に慣れるには、ある程度の努力と時間を要するから、本講義の他に、情報処理センターで開講する初心者講習会などに出席することが望ましい。関連する文献は、その都度指摘するが、テキストは次のものを用いる。

テキスト 青木茂男著 日経文庫『経営分析の手引』 日本経済新聞社 昭和45年

参考書 森田優三著 『新統計概論』 日本評論社 昭和49年

憲 法

助教授 結 城 洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I 総論

- (1) 憲法とは何か
- (2) 自然権思想と国民主権原理

II 日本の憲法

- (1) 明治憲法から日本国憲法へ

(i) 明治憲法の特徴

(ii) 憲法の変動

- (2) 日本国憲法

(i) 基本的人権の保障

(ii) 平和主義

テキスト: 清水 睦他『憲法講義I』有斐閣

大須賀明他『憲法講義II』有斐閣

参考書: 総論については、杉原泰雄編『憲法学の基礎概念I』, 同『憲法思想』(講座・憲法学の基礎1, 4) 勁草書房

基本的人権については、『憲法判例百選I, II』有斐閣

行政法 I

教授 秋 山 義 昭

具体的な事例を素材にしながら、行政法の全体を体系的に講義する。行政法は、憲法・民法等の知識を不可決とするので、受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履修済みのこと。

テキスト: 遠藤・熊本・秋山・畠山「教材行政法判例」(北大図書刊行会)

参考書: 今村成和「行政法入門(新版)」(有斐閣)

田中二郎「新版行政法上(全訂第二版)」(弘文堂)

室井ほか「行政法を学ぶ1・2」(有斐閣)

原田尚彦「行政法要論(全訂版)」(学陽書房)

秋山義昭「国家補償法」(ぎょうせい)

行政法 II

(前期) 非常勤講師 猪 股 弘 貴

(小樽商科大学短期大学部助教授)

行政法第IIの前期は、地方自治法と公務員法を中心に講義する。また、これらに先立って、行政組織法の総論と国家行政組織について概説する。組織法を論ずることが主になるので住

民訴訟や公務員法の部分を除けば判例が少ないが、できるだけ事例をあげながら話を進めるつもりである。近年公務員志望者が増加しているようであるが、そのような学生のための便宜にもなるであろう。なお、行政組織の法制度を学んでおくことは、組織原理を理解する上でも有用であると思われるので、他学科・コースの人達にとっても無益ではないと思われる。

テキストとして、田中二郎「新版 行政法（中巻）」弘文堂をあげておくが、多少「古典」的であることと、それに従って講義を進めないことをおことわりしておきたい。

（後期）非常勤講師 畠山 武道
（北海道大学教授）

租税法総論、所得税法、法人税法の一部を講義する。租税法は、税制や企業会計、税務会計そのものを取扱う学問ではなく、法律としての税法がどのような原理に基づいて組立てられ、それを適用するに際してどのような法律上の制約原理が働くのかを究明する学問である。講義に際しては、法律学としての租税法の特色を理解してもらうように心がけるつもりである。同時に、今年は『シャープ勧告』以来という大規模な税制改正がなされたので、その内容についても十分な紹介をする。講義は、基本的概念の説明はテキストに委ね、判例・事例に対するディスカッションを中心に進めるので、予習して参加すること。

テキスト：畠山武道「租税法（改訂版）」（青林書院）

参考書：金子 宏「租税法（補正版）」（弘文堂）

ジュリスト別冊「租税判例百選（第2版）」（有斐閣）

ジュリスト総合特集「日本の税金」（有斐閣）

金子・清永・宮谷・畠山「税法入門」（有斐閣新書）

財産法 I

助教授 藤原 正一

財産法 I の対象は民法総則及び物権の全体であるが、時間の制約等からも重要なテーマに焦点を絞って講義する。具体的には、法律行為、代理、物権変動が中心となると思う。出来る限り民法全体との脈絡のわかるような講義を行うつもりである。民法学及び法律学上の基本的な概念を習得するよう努力してもらいたい。

テキストは、山田他著「民法 I・総則」淡路他「民法 II・物権」（有斐閣 S シリーズ）を一応指定しておく。もちろん、他に良書と言えるものも多い。これ等については、講義で紹介する。

なお民法の全体像を早く理解したい人の為の入門書として、米倉明「プレップ民法」（弘文堂）を挙げておく。一読して決して損はしないと思う。（これは、あまり法律学を学びたくない人にもおすすめしてよい本だと考える）。本格的に、民法学・法律学を学ぼうとする方には、我妻栄「民法案内 I」（一粒社）をおすすめする。以下、続刊が総則・物権から債権法の途中までである。

六法は、判例付の小型六法が便利である。

財産法 II

非常勤講師 藪 重夫

主として民法第三編債権が対象となります。債権法は契約をめぐる問題が中心ですから、財産法 I に比べると話しが具体的で親しめるはずですが、本科目を履修することではじめて財産法の全体像をつかむことができますので、できるだけ多くの諸君が履修するようおすすめします。

テキスト：我妻栄・有泉亨「民法 2、債権」有斐閣

参考書等は開講時に紹介します。

六法全書はどこかの出版社のものでも構いませんが、判例付きの小型の六法が勉強上も便利だと思います。

民事訴訟法

講師 町村 泰貴

民事に関する様々な紛争の法的処理制度について講義する。関連領域は、判決手続、執行手続、倒産処理法等に及ぶが、今年度は判決手続を中心とし、他の領域は判決手続を理解する上で必要な限りで触れるにとどめる。

民事訴訟制度は実体私法（民法・商法など）の定める権利の存否を具体的に確定し、実現するための手続きであるので、前提となる実体法科目（財産法 I・II、環境法等）を履修済みまたは履修中であることが望ましい。なお講義では学生諸君の積極的な参加を求めるので、その覚悟で臨んでほしい。

使用する文献は六法（どの種類のものでもよいが、判例付きの六法は試験に持ち込めない）ので注意すること）が絶対必要なほか、以下の通り。

1. 教科書（次の2つのいずれを選んでもよい）

・小室直人編著『民事訴訟法講義〔改訂版〕』法律文化社— 2,800円

・中野貞一郎＝松浦馨＝鈴木正裕編『民事訴訟法講義〔補訂二版〕』

有斐閣大学双書— 3,500円

2. 参考書

・『民事訴訟法百選〔第2版〕』別冊ジュリスト76— 1,500円

その他の参考書は講義中に指示する。

会社法

教授 青竹 正一

会社法は、共同企業の典型的形態である会社組織の成立から消滅に至る諸段階における利害関係者の利益調整を行うことを主たる目的としている重要な法律である。講義は、このような会社法のうち最も重要な株式会社法の説明を中心にして、会社法が現実の企業活動においてどのように機能しているかを知ってもらうため、判例、書式などの具体的な素材を提起しながら進めることにする。なお、現在、わが国に多数存在する小規模な閉鎖的株式会社および有限会社を合理的に規整するために、会社法の改正作業が進められているので、関係するところで説明を加えることにする。

テキスト：上柳・北沢・鴻・竹内編『新版会社法 I、II』（有斐閣）

参考書：ジュリスト別冊『会社判例百選（第四版）』（有斐閣）
河本一郎編『株式会社法教材』（商事法務研究会）
青竹『続小規模閉鎖会社の法規整』（文真堂）

商取引法

（前期）非常勤講師 野田 博
（小樽商科大学短期大学部助教授）
（後期）助教授 浅木 慎一

商取引法においては、企業主体および企業活動に関する法を、主として前期に野田が、商事売買をはじめとする企業の特定種類の取引に関する法を、主として後期に浅木が、各々担当する。

具体的には、商法典中、第一編総則、第三編商行為を対象とすることになるが、これにとどまらず、近時の重要な取引問題にも言及するつもりである。

テキストは、一応、以下のものとする。

服部栄三「商法総則・商行為法講義」（文真堂）

なお、試験は、テキストにとどまらず、応用知識を広く問うこともありうるので、留意すること。

有価証券法

助教授 浅木 慎一

企業間の決済手段として、あるいは企業間の信用取引手段として、わが国で広く用いられている手形・小切手を中心に講義を進めてゆく。

将来、諸君が企業において現実に手形、小切手を扱う立場になった場合を念頭に話をしてゆく。

なお、試験は、一夜漬ではこなせないようなものを出題するつもりであるから、もちろん自己啓発的な学習がのぞまれる。

経済法

助教授 和田 健夫

独占禁止法の構造と運用について、以下のテキストを用いて講義します。

テキスト：実方謙二・厚谷襄児・向田直範・和田健夫編
「教材独占禁止法（第三版）」 青林書院

参考書：今村成和「独占禁止法入門（新版）」 有斐閣
実方謙二「独占禁止法」 有斐閣

なお講義においては、六法（どの出版社のものでもよい）を必ず持参のこと。

経済刑法

助教授 丸山 雅夫

科目名は「経済刑法」であるが、刑法の総論的基盤がなければ講義が成り立たない（理解が不可能）ので、刑法の基礎的な点を中心に講義を行う。出席はとらないが、試験だけで単位を得ることは不可能なので（そのような学生は、かつて皆無である）、相当の心構えで受

講すること。

教科書 内田文昭著『改訂刑法Ⅰ（総論）』（青林書院）

参考書 ジュリスト別冊『刑法判例百選Ⅰ総論（第二版）』（有斐閣）

内田文昭編著『争点ノート刑法Ⅰ総論』（法学書院）

労働法

非常勤講師 小宮 文人
（北海学園大学助教授）

労働法は、近年の産業構造や雇用形態の急速な変化を反映して変貌しつづけている。本講では、そうした現象に留意しながら、労働法全般について概説する。

テキスト：安枝・西村著「労働法（改訂版）」（有斐閣，1988年）

参考書：菅野和夫著「労働法（第二版）」（弘文堂，1988年）

別冊ジュリスト・労働判例百選（第五版）（有斐閣，1989年）

社会保障法（冬季集中）

非常勤講師 加藤 智章
（山形大学助教授）

集中講義という性格に則して、我が国の社会保障制度の概要と実定法分野の問題点を概説する。

講義内容は、概ね以下の通りである。

I 総論

社会保障制度の歴史

生存権規定と社会保障制度の枠組

II 各論

医療保険、年金保険、公的扶助等がどのような形で国民生活に関わってくるかを
実態や判例に触れながら検討する。

特定のテキストは使用しないが、参考文献として、次の二冊をあげる。

①西原道雄編「社会保障法（第三版）」（有斐閣双書）

②健保連編「社会保障年鑑1988年版」（東洋経済新報社）

なお受講に際しては、小六法クラスの六法を必ずもってこること。

環境法

助教授 川嶋 四郎

公害・環境問題をめぐる諸法規や裁判例を中心に、その紛争処理制度を概説します。できるだけ日常的な具体例を挙げつつ、まず、民法典中の不法行為法を講義し、次に、環境法の講義を行ないます。前者では、たとえば、交通事故、医療事故、製造物責任などの問題を扱い、後者では、自然環境、社会的環境、そして歴史的環境の保護をめぐる問題を扱います。

「被害者救済」および「被害発生の防止」という法の目的を達成するために、現在どのような法制度が存在しているかを見極めて、その救済プロセスの実効性をできるだけ批判的に検討し、そして、現行法の下での最適な救済システム—特に裁判制度の理想像—を考えて行き

たいと思います。

講義内容に関する詳細な予定表は、第1日目に配布します。

講義の中で必読文献を紹介して行きますが、不法行為法については、遠藤浩ほか編『民法(7)〔第3版〕』(有斐閣 1987)を、環境法については、人間環境問題研究会編『最近の重要環境・公害判例』(有斐閣 1987)を用いて、講義を進めて行きます。なお、どの出版社のものでもかまいませんが、六法は必携です。

講義では、クイズ形式で出欠の確認を行いません。成績は、その結果をも参照しますが、中間試験および後期試験の結果のみで評価します。

国際法 I (前期・冬季集中) (前期) 助教授 中村 恵
(後期) 非常勤講師 加藤 信行
(北海学園大学法学部講師)

1. 講義内容

国際社会における法秩序全般について、概ね以下の順序で検討します。

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 国際社会と法 | (2) 国際法の源泉 |
| (3) 国際法の主体 | (4) 国際法と個人 |
| (5) 外交関係法 | (6) 条約法 |
| (7) 領域法 | (8) 国際責任 |
| (9) 国際紛争の解決 | (10) 国際社会における平和維持 |

2. テキストおよび参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献については、その都度指示します。なお、条約集については、以下を推薦します。

小田滋・石本泰雄編『解説条約集』(三省堂)

国際機構論 助教授 中村 恵

1. 講義内容

今年度は、「国際講義による国際社会の組織化」という観点から、主として国際連合と欧州共同体について、機構の目的・内部機関の構造・表決制度等について検討します。

2. テキストおよび参考書

特定のテキストは、使用しません。ただし、「国際連合憲章」および「欧州経済共同体を設立する条約」を参照することが多いので、講義の際は条約集を持参して下さい。なお、参考書については、最初の講義の際に指示します。

国際経済法 助教授 清水 章 雄

国際法のなかで国際経済の調整・発展を目的とする部分及びそれと関連する国内法について、おおむね次の範囲で講義を行います。

1. 国際通商法

- (1) 貿易摩擦の法的問題 (2) 法的枠組としてのGATT (3) セーフガード措置
- (4) ダumping防止税 (5) 補助金・相殺関税 (6) 政府調達
- (7) GATTの紛争処理手続 (8) 開発途上国と貿易 (9) 国際商品協定

2. 国際独占禁止法

- (1) 内国独禁法の域外適用 (2) 競争制限の国際的規制

3. 国際知的所有権法

- (1) 知的所有権の属地性 (2) 国際技術移転の法的規制

4. 国際投資法

- (1) 国際投資規制 (2) 外国資産の国有化

5. 国際金融法

- (1) IMFの法的枠組 (2) 国家債務累積問題 (3) 国際開発金融

6. 国際租税法

- (1) 国際租税原則 (2) 租税条約 (3) 国際的租税連脱防止

テキストとして、松下満雄著『国際経済法』(有斐閣)とロング著『ガットと経済摩擦』(敬文堂)を使います。さらに、高野雄一・小原喜雄編『国際経済条約集』(有斐閣)を持って講義に出席して下さい。

なお、「国際経済論」・「貿易政策」を並行して履修することを勧めます。

国際取引法(冬季集中) 非常勤講師 奥田 安弘
(北海道大学助教授)

別途掲示により通知。

管理科学通論 助教授 奥田 和 重

管理科学(マネジメント・サイエンス)はシステム科学と情報科学の二本柱からなるといわれており、この講義では一方の柱であるシステム科学について学ぶ。システム科学は管理科学だけではなく経済学、経営学、社会学、さらに生理学や心理学などまでをもその対象とする横断的な学問である。しかしこれらの分野におけるシステム科学のアプローチはややもすれば還元論的、機械論的になりやすい。これを克服するためには、新しいシステム科学が求められる。本講ではこのような視点から、システム概念を正確に把握し、社会科学におけるシステム科学の役割を理解することを目的とする。

講義中に出席調査をかねた小テストを前・後期それぞれ数回行う。夏・冬休みにはレポートを提出してもらっても構わない。なお講義内容は前年度までのものとは異なるので再履修生はとくに注意してほしい。

教科書：北原貞輔 『システム科学入門』，有斐閣，(1986)，およびプリント
参考書：必要に応じて講義中に指示する。

管理科学 I

教授 若林 信夫

<前期>

表計算 (Spread-sheet) ソフトウェアの代表格である「Lotus 1-2-3」を用いて、データベース、輸送計画、データ集計法、投入産出分析、シミュレーションを学習する。

講義と演習は情報処理センター実習室で行う。

受講者は、下記の教科書のほか、3.5 インチ 2HD フロッピーディスクを用意すること。

真鍋龍太郎・逆瀬川浩孝・若山邦広，「文科系のコンピュータ/応用篇—表計算ソフトの活用—」岩波書店，1988，2500円+消費税。

<後期>

前期は主としてパソコンを利用した管理科学の学習であったのに対して、後期は主として、汎用大型計算機のFACOM M-760 / 6の上で稼働しているオペレーションズ・リサーチ/管理科学の各種の応用ソフトウェアを講義・演習する。具体的には、SAS/OR, AMPS, GPSS, ESHELLを使用する予定である。後期のための教科書はない。

夏休みと冬休みの明けた第1週目に自習ノートを提出してもらうほか定期試験がある。なお、情報処理IAまたはIBを未合格でも「やる気」さえあれば、合格できる。

管理科学 II

教授 樋口 透

ORは、企業の科学的管理を指向したものであるが、本論では、もう少し広く、社会システムに焦点をあてる。つまり、社会に存在する矛盾や不合理性が何であり、またそれらをどのように解決し、調和のあるシステムとして存続させるか。このような観点からORおよびシステム論を考える。

比較的新しい分野であり、市販の文献にない理論や手法も解説するので講義に出席し、その場で理解することが肝要である。なお、演習問題を課するのでコンピュータのプログラミングに習熟しておく必要もある。

教科書(前記)：鈴木光男・中村健二郎「社会システム」共立出版

後期は教科書を用いない。

管理科学 III

(前期) 教授 沼田 久

前期では、ORに必要なものの見方・考え方、コンピュータの世の中における使われ方、情報やコミュニケーションのシステムの現況、その他種々の題材をとり上げる予定。

毎回出席しなければ受講したことにはならないような授業をする予定であること、および、後期の講義内容とは直接的関連はないことを心得た上で受講すること。

(後期) 教授 戸島 潤

「AI (Artificial Intelligence ; 人工知能)」をメインテーマにして、コンピューター技術発展の流れのなかでAIがどのような意味を持つかを多角的に考察する。その際、日本が主導的地位にあるプロジェクトもいくつか取り上げる。講義は一般的话题を扱いながら次第に専門的傾斜を深めていく。専門分野の話題としては

1. エキスパートシステム,
2. OPS 5,
3. LISP,
4. ファジィ理論,

などを論じる。1, ではAIと同義であるように誤解されているエキスパートシステムとはどんなものかを概説する。これは数多くあるAIのテクニックのひとつに過ぎないが、AIの中の数少ない成功例でもあるのでこれを過大評価することも過小評価することも誤りである。2, ではエキスパートシステム構築ツールとして最も普及しているOPS 5を概説しエキスパートシステムの技術的問題を概観する。できればOPS 5で「プログラミング」をして貰う。3, ではAIのアセンブリ言語と言われているLISPがどんなものかを解説することを通じてAIの実像に迫る。4, ではAIとの関連でも脚光を浴びている「ファジィ」という概念とその応用を述べる。講義は板書の手間を省くため全面的にOHPを使用し、また、できるかぎりビデオを活用する。テキストは使用しない。

管理科学特講 I

非常勤講師 浅利 英吉
(北海道東海大学助教授)

二つの科目では、数多い管理科学手法の中から、社会的によく利用されているものをふたつ選び、そのポイントを講義する。手法の選択にあたっては他の科目で扱われているのと重複しないように考慮し、本年度は在庫管理理論と実験計画法を講義する。テキストは講師執筆のものを原稿とし、「コピー方式」により、学生諸君に用意してもらうものとする。

経営情報論

教授 山田 一生

現代社会の多様化と環境適応への必然性は、本格的ハイテクノロジー時代に突入した昨今、新しい企業概念を求めるといって急進的である。とりわけ、現代社会での組織変革への要請は、生き残り戦略の展開面できわめて顕著であり、いわゆる組織・管理に関する諸問題へのサイバネティック・アプローチを急務とする。本講義は、組織体が社会・経済環境の激変に適応していくためには、組織サイバネティックスの展開が必須であり、広く組織論や意思決定論など経営学的研究をも包含すべきであるとの観点から、MIS (管理情報システム) からDSS (意思決定支援システム) までの発展的考察を意図して理論面からのアプローチを試みる。同時に、OA (オフィス・オートメーション) 時代の実践的理論の構築について言及する。

ここで、経営情報論の生成過程について、MIS研究の立場からの体系的検討を試みるとすれば、まずMIS前史としての事務管理論（事務の機械化レベル）から、経営事務管理論（管理の機械化レベル）、経営情報管理論（経営の機械化レベル）へと発展段階的にとらえるのであり、さらにはより人間中心なアプローチである経営組織管理論（組織システムのレベル）へと展望させるであろう。本講座では、これらの詳細についても考察する予定である。

テキスト：山田壹生著『経営情報論～講義ノート～』（1989年版）

主要参考文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを挙げる結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

会計情報論

教授 山田 一生

情報化社会から情報社会へとも言われている現代、情報伝達のスピードが飛躍的に高まり、従来別世界にあったような情報が、今ではなくてはならない貴重な情報として活用されるという例は、今後ますます発展するものと思われる。また、情報のとらえ方もその限定された枠の中でとらえるだけでなく、より広汎な視野からとらえることが必要となってくるであろう。会計システムの場合でも、単に会計分野だけの情報にとどまらず、経営という立場から見た企業全般を対象とする情報、経済状況、社会、環境とその枠は拡大される。現代の会計学が経営学、経済学さらには社会学や環境学をも取り入れようとしている流れも、この枠の広がりによって無関係ではなからう。

会計情報システムは、企業の経営活動の全般にわたって、(1)事後計算（報告的会計）、(2)現在計算（管理的会計）、(3)事前計算（予測的会計）のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなるものである。しかるに、1966年のASOBAT (a Statement of Basic Accountig Theory)の公表以来、いまだにその実践的展開による検証を経た、真の会計情報システムの一般モデルが登場していない。さらに、企業の情報システムに対して、一般に要求されると考えられる情報の種類は、(1)歴史的情報（オペレーショナル・マネジメント層）、(2)執行情報（スタッフ・マネジメント層）、(3)決定情報（エグゼクティブ・マネジメント層）であり、現在の会計システムは、そのうちの歴史的情報の大部分を提供しているのにすぎないのが実状である。

その原因として考えられることは、まず第一に会計システムが、主として外部指向のプロセスとして、財務会計を中心として展開させてきたということがあげられる。意思決定に有効な情報をもたらすためには、内部指向のプロセスへの展開を図らなければならないが、そこで問題となるのが、意思決定者自身が各自の持つ情報ニーズをシステムに十分反映させることができないということであろう。さらに、意思決定支援のためには、意思決定者のもつ経験的な情報ニーズやその処理ロジックを柔軟にコンピュータ・システムに反映させることが必要であるが、そのためには、従来からの大型コンピュータでのEDPを中心とする集中処理型のシステムで対応することは難しく、その役割は、多種・多量のファイルハンドリン

グが可能となってきたこと、ネットワーク構築が容易であることなどの理由により、パーソナル・コンピュータが担うことも期待されているのである。

このような会計研究に関する進化論的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、(1)EDPシステム→(2)IDPシステム→(3)エキスパート・システム→(4)意思決定支援システム、さらには(5)人口知能システムとして促えられるのであり、最近における(a)構造的アプローチ（ファームウェア）、(b)技術的アプローチ（ハードウェア）、(c)人間的アプローチ（ヒューマンウェア）、(d)機能的アプローチ（ソフトウェア）という4つの側面から統合プロセスと促えることにより、会計情報システムの新展開がはかれることになろう。本講座における具体的講義内容としては、(I)会計情報システムの新展開、(II)意思決定支援システムへの実践的アプローチ、(III)意思決定支援システムの具体的展開、(IV)意思決定システム・ドキュメンテーションであるが、講義と演習とを同時併行させる方式を実現できるよう配慮することにする。

すなわち(i)仕訳プログラム、(ii)勘定記入プログラム、(iii)試算表プログラム、(iv)精算表プログラム、(v)修正財務諸表プログラム、(vi)経営分析プログラム、(vii)デシジョン・パッケージ・プログラムなどについて、DB/DC (Data Base /Data Communication) アプローチを展開する予定である。これらの同時併行作業を通じて、会計情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに、会計情報論の諸問題について論述する。

テキスト：山田壹生著『会計情報論～講義ノート～』（1989年版）

主要参考文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを挙げる結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

応用数学(代数)

(前期) 教授 沼田 久

(後期) 助教授 行方 常幸

経済学、管理科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に慣れること、線形代数学が経済学などにどのように応用されているかを知ることなどである。情報処理I、応用数学(解析)とともに、管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが、論理的能力または、ある程度の根気が必要である。講義すべき範囲が広範にわたるため、講義中十分に演習する時間がないので、復習を各自で行って頂きたい。その際、問題の解答を見ないで、自力でどこまで出組めるのか、出来ないのはどこの部分か、等をじっくりと根気よく調べてもらいたい。このことを基本的な問題毎にきちっとやる事は時間がかかり進むのも遅いが、理解への近道である。

教科書：沼田 久、行方常幸ほか著『線形数学』（富士書院、1989）

応用数学(解析)

助教授 行方 常幸

管理科学、経済学などを学ぶために必要である差分方程式、微分方程式の解法を中心に講義する。時間の許す限り講義時間中に演習を行う予定であるが、その際、各自自力で真剣に取り組んで頂きたい。自分は文科系だから出来ないのではないか、理科系だから今は手を抜いていても試験には出来るだろう、等の考えはしばらくおいておこう。問題の難易にかかわらず、真剣に取り組めば、自分にとっての問題点がだんだん明確になってくる。真剣に取り組んだ御利益は各自、体で感じる事が出来るものである。

「数学」は履修済みであるとして講義を進める。応用数学(代数)とともに履修することが、望ましい。

教科書：須田 宏「差分方程式、微分方程式」培風館

応用数学(統計 I)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト：浅井晃，村上正康＝共訳 培風館

P. G. ホーエル＝著 「入門数理統計学」

数 表：日本規格協会 「統計数値表」コンサイス版

参考書：R. V. Hogg 他著

「Introduction to mathematical Statistics」4版

応用数学特講(夏季集中)

非常勤講師 高橋 磐郎
(筑波大学教授)

従来理工学関係の学部には、解析学の応用のカリキュラムは多いが、代数学(群論、環論、体論などのいわゆる抽象代数学)の応用のカリキュラムは極めて少い。しかし近年、代数学の応用が各分野に表われはじめた。とくにガロア体(有限体)の情報工学への応用はめざましいものがある。このような観点から、ここではガロア体の情報工学への応用を学び、これを通して代数学の応用の考え方を身につけることを目標とする。

* ガロア体(有限体)

* ガロア体の実験計画法への応用

* ガロア体の符号理論への応用

* ガロア体の組合せ回路への応用

* ガロア体のM系列、M平面への応用

テキスト：高橋磐郎、「組合せ理論とその応用」岩波全書、1989年

情報処理 I A

(前期) 助教授 杉本 英二

情報処理 I はコンピュータ入門の科目です。学科別に A・B 2つのクラスが用意されていますので、それぞれ指定されたクラスを選択して下さい。

管理科学科の学生……… A クラス(担当社=前期:杉本, 後期:若林)

その他の学科の学生……… B クラス(担当者=中村)

情報処理 I A の前期は、パソコンを利用して次の項目を講義演習します。

・コンピュータの仕組みと操作の仕方

・ワープロとエディタの使い方

・プログラミング

プログラミング言語は、Turbo Pascal を使います。一般に使われている手続言語という種類の中には BASIC, FORTRAN, COBOL, Pascal, C, PL/1 など非常に多くの種類がありますが、これらの中でも Pascal は強力で簡明な言語です。特に Turbo Pascal は、とても使いやすく親切であるので、プログラミングの学習に最適です。

次にコンピュータの学習方法を示しておきます。参考にして下さい。

(1)「慣れること」です。

そうすれば、次のステップに簡単に進めます。

(2)「自分で考える」ことです。

漫然と他人のプログラムをコピーして提出するのではダメです。

(3)「失敗から学ぶ」ことです。

原因を追及しましょう。そうすれば、コンピュータがわかってくる。

(テキスト) 永野三郎ほか「Pascal 入門」東京大学出版会

(後期) 教授 若林 信夫

後期には、主として、情報処理センターの汎用大型計算機 FACOM M-760/6 を利用して、情報処理の基礎的な原理、算法(アルゴリズム)、応用ソフトウェアを講義、演習する。第2種情報処理技術者試験(4月、10月実施)に合格出来るための基礎的な問題を講義の中で提出し、解答を自動的に採点する。単に、基礎ばかりでなく、諸君が、社会に出て、使う計算機は、FACOMのような汎用大型計算機であろうから、そのオペレーティング・システムの操作やデータセットやアプリケーション・ソフトウェアの利用についても学習する。

教科書はない。

自習書は9月の半ばに掲示する。

JOYNETを利用した問題提示、解答収集がある。

質問・疑問・センター利用上のアドバイスは、穴澤務助手からも得られる。

情報処理 I B

助教授 中村 隆志

情報処理 I は A と B の二つのクラスに分けているが、各学年とも管理科学科以外の学科所属者が受講するのがこの B クラスである。

この科目では、コンピュータを仕事や研究の道具として活用できるようにすることを目的とし、その利用方法の基礎を学ぶ。主な内容は次の通りである。

・コンピュータの仕組み

- ・パソコンのワープロソフト (FM OASYS) による文書処理
 - ・パソコンの表計算ソフト (Lotus 1-2-3) によるデータの集計処理
 - ・パソコン及び大型コンピュータを用いたFORTRAN言語によるプログラミング
- 演習問題を数回出題し、その実行結果の掲出を義務づける。

テキスト：大和喜一著：「入門Lotus 1-2-3」，サイエンス社
 菊池光昭編：「文科系のためのFORTRANプログラミング入門」，
 近代科学社

情報処理 II

助教授 杉本英二

この講義のテーマは、次の2つです。

- ①手続型言語のプログラミング
- ②知識情報処理

①について

皆さんは、情報処理 I でFORTRAN, Pascal, COBOLなど手続型言語の代表を一通り眺めたことであろう。情報処理 II の①では、プログラミングを駆使して自由にコンピュータを操作できる技術を身につけることを目的としています。ねらいがプログラミング技術の修得ですから、日頃の自習のために、1週間に少なくとも4時間ほど用意して下さい。言語は、Turbo Pascal を使います。

(テキスト) 森口繁一「Pascal プログラミング講義」共立出版
 (副読本) 河西浅雄「TURBO Pascal ハンディ・マニュアル」ナツメ社

②について

人間が持っている膨大な知識や情報をどのようにコンピュータに取込むか、また取込まれた知識をどのように合成し利用するかについて、基礎的な理論、手法を講義します。特に知識の表現と推論についての理論を概観します。この講義によって、データと情報と知識について正確な理解ができるでしょう。

(テキスト) 長尾真「知識と推論」岩波書店

情報処理 III

教授 戸島 熙

数式処理言語REDUCEと応用例を解説する。この言語の主な機能は

1. 多項式や有理関数の展開,
 2. 置換とパターンマッチ,
 3. 式の簡約化の制御,
 4. 方程式の求解, 行列演算,
 5. 任意多倍長精度の整数および実数演算,
 6. 解析的微分および積分,
 7. 多項式の因数分解
- などである。たとえば

```
int (log x, x );
をREDUCEに入力すると
X*(LOG (X) - 1)
```

が得られる。ここで、int は積分を行う組み込み演算子である。講義にはテキストとして A. C. ハーン (戸島訳), REDUCEユーザーズマニュアル, マグロウヒルを使用する。なお、情報処理センターで REDUCE 3.3 を使用出来るようにする予定なので、それを用いて演習を行う。

参考文献としては次のものがある。

Gerhard Rayna, REDUCE Software for Algebraic Computation, Springer-Verlag, 1987.

情報処理特講

助教授 中村隆志

この科目ではコンピュータによる情報処理の仕組みについて講義する。主な内容は次の通りである。

- ・文字や数値のコンピュータ内部での表現
- ・論理回路
- ・コンピュータの構成
- ・オペレーティング・システム
- ・仮想記憶

テキスト：未定

6 教職科目

教育心理学

非常勤講師 湯浅誠哉
(北海道薬科大学助教授)

「教育心理学」は学校教育に携わる者には勿論必須の学問である。この学問はそれにとどまらず、広く家庭、職場等あらゆる社会における教育、学習、訓練、自己啓発、人間関係の改善にきわめて有益な理論と方法を提供する。

本講では、上のような事柄を考慮しながら、発達、学習、知能、人格(性格)、適応、さらには、今日の青少年の社会病理現象、精神衛生の問題を取り扱う。

この講義受講前に「心理学」を修習していることが望ましい。

教育史

(後期) 助教授 上野耕三郎

ヨーロッパの近代教育思想史を中心に講義します。こう書くと、今さらペスタロッチ(スイスの教育家)、ルソーでもあるまい、現代日本の教育問題の解決には役立ちはしない、という声がきこえそうです。他方では、今の日本の教育の「危機」を救うためにこそ、ペスタロッチが実践したすばらしい教育を移入すべきだ、という声もきこえます。

そのどちらにも私はくみしません。今の時代は近代そのものが、その自明性が問い直されている時代だといえます。現代の教育問題の構造はそもそも近代教育の問題構造であったとすれば、近代教育の思想課題を担った人々を検討することは、これから教師になろうとしている学生諸君に役立つと確信しております。

教科書は使用しません。

職業指導

非常勤講師 松田光一
(北海学園大学教授)

職業指導(進路指導)を考える上で必要な事項をとりあげ講義する。

- (1) 職業について
- (2) 職業指導の本質
- (3) 職業観の発達と進路指導
- (4) 進路指導の管理と運営
- (5) 進路指導の実践

テキストは使用しないが、参考図書はその都度指示する。

※ 出席を重視する。

英文学史

教授 永原和夫

テキスト: Waldo Clarke, *A Short History of English Literature*
(金星堂, ¥1,700)

イギリス文学の歴史的概説をおこなう。受講者には定期試験の外、戯曲2篇、小説2篇を読み、レポートを提出してもらう。出席を重視する。

英文学演習 I

助教授 君羅久則

英国ロマン派の詩を味読しながら、英詩法・英語修辞法の解説など英詩入門を行い、加えて英詩の分析方法を研究する。

テキスト: 上島建吉編 *English Romantic Poetry—an Anthology*—(研究社)

参考書: 志子田光雄著『英詩理解の基礎知識』(金星堂)

大山敏子著『英語修辞法』篠崎書林

斉藤 勇著『英詩概論』研究社

斉藤 勇著『イギリス文学史』研究社

斉藤 勇著『英米文学辞典』研究社

言語学概論

助教授 津曲敏郎

コトバは毎日の生活に欠かせないものでありながら、あまりにも身近なためにあらためて考える機会が少い。ふだん何気なく使っているこの「コトバ」について、客観的・科学的に見つめなおすのが言語学の出発点である。下記のテキストにそって、コトバ一般のしくみ、はたらき、歴史などを概観し、あわせて日本語と英語をより広い視点からとらえなおす。取りあげるテーマとしては、人間の言語と動物の「コトバ」の違い、さまざまな音声(テープ使用)、外国語学習、日本語の諸相(構造、方言、系統、文学)、なども含まれる。授業では積極的な発言を重視する。理由の如何を問わず、前期5回以上、通算8回以上欠席した者は、その時点で履修資格を失う。

テキスト: 小泉保 著 『教養のための言語学コース』(大修館書店, ¥2,300)

英語学演習 I

助教授 下村五三夫

ここでは音声学(Phonetics)と音韻論(Phonology)を詳細に教授します。内容を次に示します。題目からおよその講義内容を推測してください。

- (1) 人類の音声
- (2) 音声基礎論
- (3) 音声の分析と合成
- (4) 音韻論

(1)~(3)の題目の教材はプリントの形で配布します。(4)の教材として英宝社「生成音韻論—理論と分析」(2,100円)を指定します。

* 教科書は市内紀伊国屋書店でのみ購入できます。

7 研究指導

井上教官担当研究指導

1. 研究主題

International Economic History, 1820—1940.

19世紀初頭のイギリス産業革命期から20世紀20～30年代の両大戦間期にいたる国際経済史を研究主題とします。具体的には、この時期における国際貿易・移民・資本移動・国際金融などの発展・展開過程をフォローすることによって、19世紀的世界と20世紀的世界を比較してみたいと考えています。

2. 指導要領

3年次と4年次前半までの約1年半の間、国際経済史に関する英文テキストを輪読します。3年次末までに卒業論文のテーマを決めて、レポートを提出してもらいます。4年次の後半からは卒業論文の本格的な作成準備に移ります。

3. 指導テキストおよび参考書

テキスト：A. G. Kenwood and A. L. Lougheed, *The Growth of International Economy, 1820—1980, An Introductory Text*, London, 1984.

参考書は適宜指示します。

鶴沢教官担当研究指導

1. 研究主題

理論経済学, 特に, ミクロ経済理論

2. 指導要領

3年次では, 英文テキストによる学習, および, その他の論文を読む。

4年次では, 個別テーマに基づく卒業論文作成のための報告と討論。

3. テキスト

Shubik, M., *Market Structure and Behavior*, (Harvard U. P., 1980).

遠藤教官担当研究指導

1. 研究主題

計量経済分析

2. 指導要領

3年次生は下記テキストの講読, 4年次生はテキストの講読と卒業論文の作成。

3. テキスト

3年次生：J. Jarrett, *Business Forecasting Methods*, 1987.

4年次生：J. Kmenta, *Elements of Econometrics*, 2/e, 1986.

今教官担当研究指導

1. 研究主題

金融論およびマクロ経済学

2. 指導要領

3年次はテキストの輪読(報告, 討議)。

4年次は各自の選んだ個別テーマについて報告, 討論する。

3. 指導テキストおよび参考書

R. E. Hall and J. B. Taylor, *Macroeconomics: Theory, Performance, and Policy*. 1986.

佐竹教官担当研究指導

1. 研究主題

国際経済に関する諸問題の経済分析

特に保護貿易主義の問題を検討する。

2. 指導要領

3年次：国際経済学・貿易政策の基礎知識と理論を修得することを第一の目的とする。

そのために下記のようなテキストを輪読する。

4年次：各自のテーマに沿った卒業論文の指導を行う。

3. 指導テキストおよび参考書

Krugman, P. R. and M. Obstfeld, *International Economics*, Glenview, Scott, Foresman and Company, 1987.

早見教官担当研究指導

1. 研究主題

公共政策と企業行動：企業という経済単位は、投入要素と技術を媒介として産出物に換えるだけでなく、経営資金の調達を行ったり、所得税・法人税・その他の物品諸税を政府へ支払ったり、補助金をうけたりしている。またその内部組織を外部からの影響に対応して、どのように編成するかの問題をかかえている。まことに多面的活動に携わっているが、その理解につとめたいと思う。

2. 指導要領

まず以下3.(1)の和書を読む。つぎに、3.(2)及び(3)の英語文献のうちから選択して、輪読する。こののち、卒論の作成テーマを示唆し、報告してもらう。

3. 指導テキストおよび参考書

- (1) 青木昌彦・伊丹敬之『企業の経済学』岩波書店, 1985.
- (2) Breit, Hochman & Saueracker(eds.), *Readings in Microeconomics*(Mosby, 1986).
- (3) Clarke & McGuinness, *The Economics of the Firm*(Blackwell, 1988).

久次教官担当研究指導

1. 研究主題

統計学の数理的方法論に重点をおく。

2. 指導要領

3年次 テキストの講読・討論・演習

4年次 追加文献の講読および卒業論文の作成

卒業論文のテーマは下記の分野から選ぶ。

- ・統計学・計量経済学の数理的方法論
- ・実証分析
- ・統計に関するソフトウェア

3. 指導テキスト

3年次生: G. S. Maddala, *Econometrics* McGraw-Hill, 1977.

4年次生: J. Johnston, *Econometric Methods*, McGraw-Hill, 1984.

4. 申し込みの条件

「統計学」を履修中のこと。

5. その他

- (1) 解析学(積分, 偏微分, 無限級数など), 線形代数(逆行列, 掃き出し法, 行列式, 固有値問題など)については2年次までに修得しておくこと(未履修者も受け入れるが自習してほしい。)
- (2) 3年次において「数理統計学」を履修すること。

栗田教官担当研究指導

1. 研究主題

経済学における方法

経済学の方法論の変遷を, 古典派から現代に至るまで歴史的に研究する。

2. 指導要領

3年ゼミ: 下記のテキストにそって, 各時代の方法論に関する文献を読む。ゼミでは, リポーターによる報告を中心に討論をおこなう。

3. 指導テキストおよび参考書

テキスト: Mark Blaug, *Economic Theory in Retrospect* (4th ed)の方法論の補

遺(邦訳あり)。

参考書: Mark Blaug, *The Methodology of Economics*.

付随文献は, 4月に指示する。

坪沼教官担当研究指導

1. 研究主題

金融市場についての理論的な基礎知識を修得し, さらに専門的テーマとして金融市場における情報の役割について研究する。

2. 指導要領

3年次: 日本語のテキストで金融論の基礎を学んだ後, 英文テキストを輪読する。

4年次: 卒論の指導。

3. 指導テキスト及び参考書

丸 淳子・須藤 恵・小峰みどり『現代証券市場分析』東洋経済新報社, 1986年。
N. Strong and M. Walker, *Information and Capital Markets*, Blackwell, 1987.

船津教官担当研究指導

1. 研究主題

国際経済に関する理論的研究

2. 指導要領

3年次においては, 国際経済学の標準的英文テキストを輪読し, 国際経済学に対する理解を深める。4年次においては, 各自設定したテーマに沿って, 研究発表と討議を行い, 卒業論文を作成する。

3. 指導テキストおよび参考書

W. Ethier, *Modern International Economics*, 2nd Edition(1988, Norton)

本間教官担当研究指導

1. 研究主題

「国際的視野における農業と経済」

経済発展における農業の役割や国際経済摩擦の中の農業問題を理論的・実証的に分析する。その中には世界の食糧問題, 南北問題, 農産物貿易問題等のトピックスが含まれる。

2. 指導要領

4年次は卒業論文の指導。

3. 指導テキストおよび参考書

開発経済学, 農業経済学, 国際経済学関連の文献からいくつかをとりあげる。

松井教官担当研究指導

- 3年次 テキスト・ブック講読
Robert Z. Aliber, International Money Game, 1987.
Daniel R. Kane, Principles of International Finance, 1988.
斉藤精一郎『ゼミナール 現代金融入門』, 1988年。
- 4年次 卒業論文指導

山本(賢)教官担当研究指導

1. 研究主題
ミクロ経済理論とその応用
2. 指導要領
3年次: 基礎的な文献について報告を行ってもらい, その過程で分析用具に習熟し, 卒業論文のテーマを決める。
4年次: 卒業論文の作成。なお, 他のメンバーの論文についての積極的なコメントも求められる。
3. 指導テキスト
幾つかのテキスト・解説論文を中心とする reading list を, 開講時に用意する。

久野教官担当研究指導

1. 研究主題
会計学(簿記学を含む)
2. 指導要領
3年次: わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。
4年次: 卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行う。
3. 指導テキストおよび参考書
3年次の後半において使用する外書は学生諸君と相談のうえ決定する。
4. 申し込みの条件
2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し, かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者
5. その他
ゼミという組織にかんがみ, ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

篠崎教官担当研究指導

1. 研究主題
管理と組織の基礎的研究
資本主義的管理が進めば, 現場における労働は細分化され, 低劣化されるか否か。官僚制はヴェーバーの現念型どおりに組織において貫徹しているか。この二つの問題は最近における管理と組織における解決すべき課題である。この二つを意識しながら, 管理と組織を考えていこう。
2. 指導要領
3年次において下記のテキストを読みながら社会科学的なものの考え方と基礎概念を修得し, 4年次において卒論テーマを決定し, 卒論作成を指導する。
3. 指導テキストおよび参考書
内田義彦『資本論の世界』岩波書店
ブレイヴァマン著富沢賢治訳『労働と独占資本』岩波書店
ジャコービ著荒又ほか訳『雇用官僚制—アメリカの内部労働市場と“良い仕事”の生成史』北海道大学図書刊行会

中教官担当研究指導

1. 研究主題
管理会計論
財務諸表分析
卒業論文のテーマとして財務諸表分析を選択する場合には, 統計学とコンピュータによる情報処理の学習が必要になる。
2. 指導要領
3年次生: 管理会計および原価計算に関する基礎的な知識を習得するために教科書的な文献を輪読する。英語文献をとり上げる予定。
4年次生: 各自の選択した卒業論文のテーマにそって指導する。
3. 指導テキストおよび参考書
未定

森田教官担当研究指導

1. 研究主題
国際関係の経済学的分析
特に「日本の選択」に関する政治経済学的分析に焦点をあてることにする。
2. 指導要領

3年次：基礎的文献の輪読

4年次：卒業論文の作成指導

3. 指導テキストおよび参考書

(テキスト) Robert O. Keohane, *After Hegemony*, Princeton University Press, 1984.

(参考書) ポール・ケネディ『大国の興亡』(上)(下)(鈴木訳)草思社, 1988.

リチャード・ローズクランズ『新貿易国家論』(土屋訳)中央公論社, 1987
等を予定している。

和田(完)教官担当研究指導

1. 研究主題

産業精神衛生

企業体やその周辺環境が雇用者へ及ぼす、各種の心理学的問題を、臨床心理学的視野から検討する。

2. 指導要領

(1) 3年次

必要な臨床心理学的知識の吸収

(2) 4年次

具体的問題(例えばアルコール関連問題)へのアプローチと、卒論の早期の準備。

3. 指導テキストおよび参考書

概論は教室で用意するテキストによる。

専門論文は主としてコピーして利用。

青山教官担当研究指導

1. 研究主題

証券、金融に関する研究

2. 指導要領

3年次生：研究主題にそって証券、金融に関する文献を読み、問題意識の醸成につとめる。

4年次生：前期はテキストの講読を中心に行う。後期は卒論作成に向け各自の卒論テーマに関する報告と討論を行う。

3. テキスト

当面、次の文献を予定している。

3年次：奥村 宏『日本の株式会社』東洋経済新報社

4年次：生駒道弘『株式時価発行の理論』千倉書房

井村教官担当研究指導

1. 研究主題

証券金融論の諸問題。

2. 指導要領

マルクスの金融論・信用論に関する文献を輪読しつつ基礎的な認識を獲得した上で、現代の金融・資本市場の構造的・機構的な特質についての認識を深める。

鶴野教官担当研究指導

1. 研究主題

経営組織論

企業の組織行動、組織構造の設計の理論を取り扱います。

コンティンジェンシー理論により蓄積された研究成果を学習してもらった後、実際の組織行動、及び組織構造のデータを収集してもらい、さらにそれらを多変量解析を使って分析してもらいます。

2. 指導要領

3年次及び4年次の前期はテキストを講読します。

4年次の後期は卒業論文の作成指導をします。

3. 指導テキストおよび参考書

Judith R. Gordon., *Organizational Behavior* (Second Edition), Allyn and Bacon Inc.: Boston

芝祐順, 『相関分析法』(第3版), 東京大学出版会

岩田暁一, 『経済分析のための統計的方法』(第2版), 東洋経済新報社

小田教官担当研究指導

1. 研究主題

現代企業の「所有一支配一経営」の構造

2. 指導要領

3年次一テキストの輪読

3. 指導テキスト

奥村宏『法人資本主義—「会社本位」の体系—』, 御茶の水書房, 1984年, 1,800円。

その他、もう一冊読む予定(英語文献)。

高田教官担当研究指導

1. 研究主題
ビッグ・ビジネス，とくに多国籍企業の経営活動。経営史的接近を主体にする。
2. 指導要領
3年次：テキスト輪読・討論（内外の文献をできるだけ多くあたり，活発な討議のなかで問題関心と分析力を養いたい）
4年次：卒業論文の作成（ゼミナリスト間の切磋琢磨を通じて論文作成を図りたい）
3. テキスト
テキストは多数（英文も多用）。適宜指示します。

高宮城教官担当研究指導

1. 研究主題
マーケティングおよび流通システムの理論的・実証的研究を行う。我々の日常生活ときわめて近いところにある企業・組織体のマーケティング活動と，それと密接な関係にある流通システムの諸側面について，理論と実際の両面から分析を加えることにより，広義の流通現象についての理解を深めることをねらいとする。
2. 指導要領
3年次：マーケティング論・流通システム論の基礎知識を修得するために文献輪読とケーススタディを行う。これと並行して3年次後半よりグループで実証研究を行うことを求める。
4年次：卒業論文の指導を教室での討論と個別指導を通じて行う。
3. 指導テキストおよび参考書
追って指示するが，以下の文献を予定している。
嶋口充輝・石井淳蔵『現代マーケティング』，有斐閣，1987年。
G. D. ヒューズ『戦略的マーケティング』，プレジデント社，1982年。
石井淳蔵『日本企業のマーケティング行動』，日本経済新聞社，1984年。
鈴木安昭・田村正紀『商業論』，有斐閣，1980年。
田村正紀『日本型流通システム』，千倉書房，1986年。
D. A. アーカー，G. S. デイ『マーケティング・リサーチ』，白桃書房，1981年。

東條教官担当研究指導

1. 研究主題
労務管理，労使関係に関する事
a. 労使関係の国際比較

- b. 1970年代以降の日本の産業構造
- c. 日本の工場 100年の歴史
- d. 北海道の産業空洞化と労働生活
- e. 今日の労働者の勤労意識
のうちから，ゼミ生と相談して決める。
2. 指導要領
3年目の前半までテキストを読んで自由に話しあう。
3年目の秋に個人又はグループで一応の研究テーマを決めてもらい，以後その研究報告を中心に運営する。
3. 指導テキストおよび参考書
特になし。

福島教官担当研究指導

1. 研究主題
原価計算論および管理会計論
2. 指導要領
3年次の前半では基本的な「原価計算」および「管理会計」のテキストによって基礎知識を身につけ，その後半から4年次にかけて「管理会計」の英語文献によって理解を深める。ひきつづき卒業までに，各自選択したテーマで卒業論文を執筆する。
いずれの段階においても，単なる知識の修得ではなく，討論を通じて研究主題特有の考え方を培うことを目標にする。
3. テキスト
3年次前半で使用するテキストは横浜国立大会計学研究室編『原価計算論』（同文館，1979）および辻厚生編著『管理会計の基礎理論』（中央経済社，1985）。後半から使用する英文テキストについては後日ゼミ生と相談して決定する。
4. 留意事項
ゼミ生には旺盛な研究意欲とともに地道な学習努力を要求する。

松本(康)教官担当研究指導

1. 研究主題
簿記，財務会計論，および国際会計論
2. 指導要領
3年次：上記3つの研究主題について，上記の順序に従って，数冊の文献（欧文を含む）の輪読・討論を重ねてゆく。
なお，長期の休み期間（春・夏・冬休み）について，レポート課題を与える

ことによって、有効に活用するつもりです。

4年次：卒業論文の作成を最終目的として、各自の選択したテーマについて発表と討論を重ねます。

3. 指導テキストおよび参考書

上記の研究主題ごとに、主として次の文献を取り上げる予定です。

<簿記>

井上 清『実験 簿記ゼミナール』

安平昭二『簿記詳論』

中村 忠・大藪俊哉『対話 簿記の問題点をさぐる』

<財務会計論>

若杉 明『クイックマスター企業会計』

中村 忠『現代会計学』、『株式会社会計の基礎』

中村 忠 編『対談 会計基準を学ぶ』

<国際会計論>

D. D. AlHashim, J. S. Arpan, *International Dimensions of Accounting*.
2nd ed.

山本(真)教官担当研究指導

1. 研究主題

簿記および財務会計論

2. 指導要領

3年次においては、文献講読、レポート提出により財務会計論の基本的思考を修得し、4年次において、各自の選択したテーマにしたがって卒業論文を作成します。指導計画は次のとおりです。

3年次前期：邦語テキストの輪読と報告

3年次後期：外国語テキストの輪読と報告

4年次前期：上記の継続

4年次後期：卒業論文の作成

3. テキスト

中村忠著『新訂現代会計学』（白桃書房）

外国語テキストについては未定

4. その他

ゼミナールは共通の学問的関心を持つものが集い、学問的研鑽を積む場ですが、同時に、大学における人間形成の場としても重要と考えます。ゼミにおける研究は当然のこと、その他のゼミ活動にも積極的に企画、立案、参加することが要請されます。

青竹教官担当研究指導

1. 研究主題

会社法の研究

2. 指導要領

会社法に関する具体的問題および判例をテキスト・参考書より取り上げて報告、討論してもらい、会社法が企業活動とどのようにかかわっているかを知ってもらう。自発的な討論を期待している。

なお、4年次の後半は卒業論文の作成指導を中心とする。

3. 指導テキストおよび参考書

(1) 上柳・鴻・竹内編『会社法演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（有斐閣）

(2) ジュリスト別冊『会社判例百選（第四版）』（有斐閣）

(3) 青竹『続小規模閉鎖会社の法規整』（文真堂）

秋山教官担当研究指導

1. 研究主題

「行政判例の研究」

過去の重要な行政判例をとりあげ、具体的なケースを通して行政法の理解を深めるとともに、法律的な分析能力、思考能力を養うことをねらいとする。

2. 指導要領

3年次生はとりあえず下記の(1)を用い、行政判例の読み方と解釈論の基礎を身につける。

4年次生は下記(1)および(2)を用い、直接判決文にあたりながら判例理論を学び、後半は卒論作成を中心とする。

3. 指導テキストおよび参考書

(1) 行政判例百選（第Ⅱ版）Ⅰ、Ⅱ（別冊ジュリスト）

(2) 判例時報

なお、平成元年度ゼミ履修者は、4月開講時までに上記(1)を各自入手しておくこと。

浅木教官担当研究指導

1. 研究主題

銀行取引を素材とした私法の理解

2. 指導要領

銀行取引において生じうる事例問題の検討により、私法も運用しうるようになることを目的とする。

担当者による報告と、全体での議論を行う。

3. 指導テキスト
選定中。

川嶋教官担当研究指導

1. 研究主題

「司法的な紛争処理制度の研究」

社会に生起する様々な紛争により産み出された被害者が、司法制度（特に裁判所）を通じて、現在どの程度救済されているかを把握した上で、将来いかにして救済されるのが妥当であるかという問題について、研究することを目的とします。そのさい、各種の個別的な紛争（例、公害・環境紛争、交通事故紛争など）に関する裁判例・学説を素材にして、主として手続法の分野から、実践的かつ理論的に、あるべき救済方法・手続方式を模索しつつ、問題にアプローチして行きたいと考えております。

2. 指導要領

報告、議論、解説を通じて、問題についての認識と理解を深めて行きたいと思っています。

3年次：前半は 司法的な紛争処理制度に関する基礎的な知識を得るために、一定量の文献の講読を行います。

後半は、個別的なテーマに関する研究報告をめぐる質疑応答を中心に、各種の問題にアプローチして行きます。

4年次：卒業論文のテーマを選定し、それに関する報告と議論を重ねます。

3. テキストおよび参考書

具体的には後に指定しますが、次のような文献を予定しています。

- (1) 富井利安＝伊藤護也編『公害と環境法の展開』（法律文化社 1987）
- (2) J. O'Connell, Remedies 2nd ed. (West 1985)
- (3) R. Findley & D. Farber, Environmental Law 2nd ed. (West 1988)
- (4) 人間環境問題研究会編『最近の重要環境・公害判例』（有斐閣1987）
- (5) 鈴木忠一＝三ヶ月章監修『新・実務民事訴訟講座4－6〔不法行為訴訟Ⅰ－Ⅲ〕』（日本評論社 1982－83）

清水教官担当研究指導

1. 研究主題

「国際経済法」

国際経済法という分野は、国際法で経済に関係する部分とそれに関連する国内法を研究対象とすると考えられる。この研究指導においては、そのなかでも国際貿易の公的な規制に関する法律問題を取り上げる。中心的な課題は、ガットという法的枠組において貿易摩擦問題がどのように扱われているかを検討することである。

2. 指導要領

3年次及び4年次前半：下記(1)と(2)のガット文書を講読した後、ガットの紛争処理手続において扱われた具体的な事例を検討する。

4年次後半：卒業論文作成の指導を行う。

3. 指導テキストおよび参考書

- (1) Conciliation and Dispute Settlement, GATT FOCUS Nos.46 & 47.
- (2) MTN. TNC/7 (MIN), pp. 26-33.
- (3) 松下満雄著『国際経済法』（有斐閣）
- (4) ロング著『ガットと経済摩擦』（敬文堂）

中村(恵)教官担当研究指導

1. 研究主題

国際法上の基本問題

2. 指導要領

3年次－国際法に関する文献の輪読および国際法判例の研究

4年次－卒業論文作成指導

3. 指導テキスト

最初の時間に、文献・判例の検索方法を指導した後、各自が選択する。

藤原教官担当研究指導

1. 研究主題

民法学上の諸問題。財産法を中心とする。

2. 指導要領

民法学の基本的な問題点の討論を通じて、民法学の現代的課題を探究する。

運営の仕方は、レポーター1名、ディスカサント1名の2名を中心とする全員の討論による（3年次）。4年次は原則として、昨年のやり方を変更しない。但し、後半からは、卒論の中間報告をしてもらうことにする。

3. 指導テキストおよび参考書

4年次は、「ワークブック民法」（有斐閣）。

3年次は、谷口・加藤編「判例演習民法(1)(2)」（有斐閣ブックス）。

参考書等は、追って指示する。

丸山教官担当研究指導

1. 研究主題

広義の刑事法（少年法、刑事訴訟法等を含む）に関する諸問題の検討。

2. 指導要領

3年次：各人の選択した個別テーマについて報告，討論を行う。

4年次：3年次と同じ方法により卒論指導を行う。

3. 指導テキストおよび参考書

特に指定しないが，最低限，刑法総論の教科書を通読しておくことと，ジュリスト判例百選刑法I, (II)を準備しておくこと。

結城教官担当研究指導

1. 研究主題

近代立憲主義並びに現代憲法における基本問題

2. 指導要領

3年次生 テキストの項目を分担して報告と討論を行う。

4年次生 卒論の作成と報告

3. 指導テキストおよび参考書

テキストは目下，次のものを念頭に置いている。

小嶋和司編『憲法の争点』（ジュリスト増刊，法律学の争点シリーズ2）

有斐閣（新版 1,500円）

和田(健)教官担当研究指導

1. 研究主題

独占禁止政策の実効性の研究

2. 指導要領

上記テーマに関する2年間の研究スケジュールを作成し各自の担当部分を決め報告してもらう。4年次には卒業論文の編集もあわせて行う。

3. 参考文献

1. 経済法の講義項目に掲げた文献

2. 御園生等「日本の独占禁止政策と産業組織」（河出書房新社）

3. Elzinga & Breit, The Antitrust Penalties, 1976.

4. White, Private Antitrust Litigation, New Evidence, New Learning, 1988他。

町村教官担当研究指導

民事訴訟手続および倒産処理手続に関する諸問題を勉強することにより，実社会に生じる様々なトラブルの解決の過程で求められる公正・平等の一つのありかたをイメージできるようになることが目標である。

今年度はまず基礎知識の修得のため，福永＝井上『民事の訴訟』（筑摩書房）を題材として医療過誤訴訟を舞台とした民事訴訟の流れを学び，続いて三ヶ月＝中野＝竹下編『新版・民事訴訟法演習1・2』（有斐閣）を用いてより理解を深めていく予定である。なお希望があれば，民事執行および倒産処理手続についても触れる機会を持ちたいと考えている。

戸島教官担当研究指導

1. 研究主題

Lisp 処理系（インタプリタとコンパイラ）の研究と開発。

2. 指導要領

研究用に準備してあるBasic, Pascal, Cなどで記述された小規模なLisp インタプリタを対象にその機能を拡張しそれらの上でLisp で記述されたLisp コンパイラを走らせる。コンパイラは新しく開発するものか既存のものを使用する。

3. 指導テキストおよび参考書

必要に応じてその都度指示するが，次の文献はLisp プログラミングを行う者にとっては必読書のひとつである。

Winston and Horn, LIPS(2nd Ed.), Addison-Wesley, 1984.

沼田教官担当研究指導

1. 研究主題

オペレーションズ・リサーチ

オペレーションズ・リサーチには多数・多種類の分野や手法がある。それらのすべてについて勉強することは不可能であるが，オペレーションズ・リサーチの考え方，基礎的知識を身につけるとともに，いくつかの分野について詳細な勉強をする。

2. テキスト

William P. Cooke, Quantitative Methods for Management Decisions (McGraw-Hill, 1985, International Student Edition)

3. ゼミ所属の条件

イ. 管理科学概論履修済みのこと。

ロ. 応用数学（代数）に合格すること。

ハ. 情報処理I不合格の場合は辞退してもらう。

樋口教官担当研究指導

1. 研究主題

社会システム・モデルに関する理論的および実証的研究

2. 指導要領

3年次：テキスト講読とコンピュータ・プログラミング演習。

4年次：テキスト講読および社会システムのモデル構築のためのシステム分析，データ収集，プログラム開発ならびにデータ解析（卒業研究）。ゼミで扱う研究内容は管理科学Ⅱでとりあげたテーマをより詳細にしたものと考えてさしつかえない。したがってそれを必ず受講することを条件とする。

3. テキスト

3年次：未定

4年次：論文コピーを使用

山田(一)教官担当研究指導

1. 研究主題

現代組織科学技術の総合的研究

現代における経営学説，組織論には実に多種多様な理論，アプローチが存在するが，それらを組織科学と称し，以下の5項目を中心題目として研究していくことにする。

(I) 経営情報論

(II) システム監査論

(III) コンピュータと心霊学

(IV) 組織サイバネティックス

(V) バイオ・コンピュータの基礎

上記のテーマのうち，3つないし4つのテーマを実践する。

2. 指導要領

商学部のゼミとして，実践的な研究を行う。将来の企業人の資質を養成できると信ずる。

卒論のテーマ及び使用するテキスト等は，相談の上決定する。

3年次) ①使用テキストを決め輪読形式で研究

②コンピュータの操作及び基礎知識の修得

4年次) 各自卒論の完成と評価

3. 指導テキストおよび参考書

I アメリカ及びドイツの組織論についての文献

II 日本の経営学についての文献

III アメリカのManagement Scienceについての文献

IV 世界中のComputer Scienceについての文献

(Iは輪読，II III IVは各自テーマにそい選択，いずれも相談の上決定する。)

4. 申し込みの条件

真の人間尊重をめざした道具（パートナー）としてのコンピュータの活用の実現に向けて，意欲を傾ける努力家を歓迎する。

原則として管理科学科に所属していること。

若林教官担当研究指導

1. 研究主題

「管理科学の基礎的研究」

・マイクロコンピュータと数理計画法（線形計画法，二次計画法）

・アルゴリズムとデータ構造（Modula - 2）

2. 指導要領

・管理科学の幅の広いものの見方・考え方を養う。

・指導テキストの輪読と演習。

・下記のテーマについての卒業論文の作成を指導。

数理計画法，生産在庫計画，現代ゲームの理論，ネットワーク・グラフ理論
プログラミング暗号学その他。

3. 指導テキストおよび参考書

Linus Schrage, *Linear Programming Models with LINDO*, The Scientific Press, 1982. の予定。

奥田教官担当研究指導

1. 研究主題

生産システムに関する研究

物（品物に限らず情報やサービスを含む）を製造する生産システムを対象にした生産計画，生産実施，生産管理の理論的研究を行う。

2. 指導要領

3年次：テキスト輪読，文献紹介を通じて各自の卒論のテーマを選択する。

4年次：卒論のテーマに関する文献紹介および研究報告を行い卒業論文の作成する。

3. 指導テキスト

当面次のテキストを利用します。

人見勝人：『生産システム論Ⅰ～Ⅴ』，システム/制御/情報（旧名 システムと制御），1988～1989。

久志本茂：最適化問題の基礎，森北出版，(1979)

4. ゼミ所属の条件

管理科学概論を履修済みのこと。

管理科学通論，応用数学（代数），応用数学（解析），情報処理Ⅰを履修していること。

清水川教官担当研究指導

1. 研究主題
統計学
2. 指導要領
統計手法の使い方を学ぶ。
3. 指導テキストおよび参考書
W. R. Dillon 他: "Multivariate Analysis" methods and applications. 1984

杉本教官担当研究指導

1. 研究主題
人工知能と言語情報処理
人工知能と呼ばれている分野へのコンピュータの応用が盛んになってきている。最近では工学系への応用よりも、文系の分野の応用の方が重要になっている。その場合、2つのことが問題になる。社会的なルールや人間の思考をどのようにコンピュータの中で表現するかということと、人間が使っている言葉をコンピュータでどう理解するのかということである。
2. 指導要領
3年生 : コンピュータ言語 (Pascal, prolog, Lisp) の学習
4年生前半 : 人工知能に関する様々の手法の学習
4年生後半 : 各自のテーマでの卒論研究
3. 指導テキストおよび参考書
ウィンストン「LISP」培風館
スターリング・シャピロ「Prolog の技芸」
エイホ・ホップクロフト・ウルマン「データ構造とアルゴリズム」
シャンク「自然言語理解入門」総研出版

中村(隆)教官担当研究指導

1. 研究主題
情報処理に関する基礎的研究
・アルゴリズムとデータ構造
・オペレーティングシステム
2. 指導要領
3年次 : テキストの輪読と演習
4年次 : 卒業論文の作成指導

3. テキスト

A. V. エイホ他著: 「データ構造とアルゴリズム」, 培風館

行方教官担当研究指導

1. 研究主題
オペレーションズ・リサーチ, 特に動的計画法, ゲームの理論等の基礎的研究。
2. 指導要領
オペレーションズ・リサーチの中から, 多段階決定過程を扱う動的計画法, 意思決定者が2人以上の場合を扱うゲームの理論を取り上げ, その基礎理論の理解と応用を目標とする。
3年次: テキストの講読, 演習。
4年次: 卒業論文の作成指導。
3. 指導テキスト及び参考書
3年次: 「ゲームの理論」 西田俊夫著 日科技連
4年次: "Rational Behavior and Bargaining Equilibrium in Game and Social Situations" by John C. Harsanyi 1977.

永原教官担当研究指導

1. 研究主題
英米小説及び文芸批評
2. 指導要領
3年次: 毎週短編小説一編を読み, 発表・討論を行って文学研究の基礎を養い, あわせて現代文芸批評についても指導する。
4年次: 各自の研究テーマについて卒業論文(英文40枚程度)作成を最終目的として報告と討論を中心にする。
3. 指導テキストおよび参考書
Brooks & Warren. *Understanding Fiction*
E. M. Forster. *Aspects of the Novel*
Wayne C. Booth. *The Rhetoric of Fiction*
原田敬一訳, 「MLA新英語論文の手引」(北星堂)

君羅教官担当研究指導

1. 研究主題
英文学(英詩及びシェークスピア)

2. 指導要領

3年次：毎週英詩数編を読み、発表・討論を行いながら英詩の分析法を中心に文学批評・研究の基礎を養生する。

4年次：前半（8月頃まで）は3年次の続き。

後半（9月以降）は各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）作成を最終目的として報告と討論を中心とする。

3. 指導テキストおよび参考書

R. Brooks & R. P. Warren, *Understanding Poetry*, 4th ed. (Holt, Rinehart & Winston, 1976)

F. T. Palgrave, *The Golden Treasury* (Oxford U. P., 1964)

志子田光雄『英詩理解の基礎知識』（金星堂）

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引』（北星堂）

下村教官担当研究指導

言語音声学 (Linguistic Phonetics) の研究指導をします。今年度は、①音声音素論 ②生成音韻論 ③実験音声学を中心に指導します。

卒業年次生には、各自の関心に応じたテーマを設定し、研究論文にまとめあげる手助けをします。この論文には、必ず実験音声学による資料の解析結果が盛り込まれていなければなりません。

申し込みの条件

- (1) 商業教員養成課程に所属していること。
- (2) 英語教員免許のための教職に関する専門科目を24単位以上取得のこと。

山本教官担当研究指導

1. 研究主題

生成文法理論

2. 指導要領

3年次：毎週生成文法理論に関する論文を読み、生成理論の基礎を養成する。

4年次：各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）作成を最終目的として報告と討論を中心とする。

3. 指導テキストおよび参考書

A. Radford, *Transformational Grammar*

V. J. Cook, *Chomsky's Universal Grammar*

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）その他必要に応じて紹介する。

VII 一般教育ゼミ

一般教育ゼミ（日本文学）

教授 村山 出

現代短歌を鑑賞し、自分でも短歌を作ってみたいと思う人——今まで作った経験が全くなくとも歓迎します——がいましたら、随時下記の研究室に来て下さい。

場 所 新研究棟4階 456室

一般教育ゼミ（数学）

助教授 兼 岩 龍 二

近年ファジー集合とかファジー制御という言葉が新聞・テレビ・科学雑誌等に現われるようになってきました。「これは一体何であろうか？」をさぐるゼミナールを開きたいと思えます。興味のある方（学年は問いません）は4月25日（火）17時に小生の研究室に集まって下さい。

一般教育ゼミ（ドイツ語Ⅲ）

助教授 寺 田 龍 男

このクラスは既にドイツ語Ⅰ・Ⅱを終えてなお更にドイツ語に接してみたいという人たちのために設けます。単位にはなりません。その分気楽に進められるコースにしようと思えます。参加される皆さんの取り組みやすい、興味深いテキストに基づいて重要な文法事項を確認しつつゆっくりと進むのです。ですからドイツ語Ⅰ・Ⅱで優等生だった人はもちろん、その正反対だった人の参加も歓迎します。希望者は4月17日12時20分に寺田研究室（511）に来て下さい。その時にクラスの時間と場所を相談します。なお使用テキストに関しては以下のものの中から皆さんに決めてもらいます。

—日本文学のドイツ語訳（『百人一首』、田中康夫『なんとなくクリスタル』等）。これらを通して日本語とドイツ語の表現法や発想の差異を考える。

—Aids 患者の手記。

—日本の流通市場に関するドイツ語論文

—その他参加者が特に希望するもの。